

2010年度事業報告

アジア全体が徐々に発展する中で、これまでのような一方的な救済型支援の方法に対する見直しが必要な時期に来ているといえる。即ち、2009年に発足した、アジア・フレンドシップ夢基金の創設に見られる如く、貧困なきアジア社会を目指すという理念の下で、発展途上地域の個々の支援事項をアジア地域全体で捉え、アジアの共通問題として考え、共同支援していく方向に向かいつつある。

その意味で、2010年度はこれまでの海外支援の方策を転換するための準備段階に入った時期として捉えられる。

この度、2010年度末（2011年3月11日）に我が国に起こった未曾有の大震災に対して震災翌日にはすでに南インドの支援地区、カルナータカ州ビジャプールの貧農の子弟のための学校、コスモニケタン学園の生徒たちが集めた 4,444 ルピー（邦貨、約 8,888 円）を支援金として当時現地訪問中の村上事務局長に寄せられた。以後、これまでにアジア各地の貧しい民衆から日頃の支援に感謝して相当額の義捐金が本会の支援・提携団体を通じて本会に寄せられていることを特記したい。

2010年度の活動報告は以下の如くである。

I. 開発支援事業

本会の開発支援事業は基本的に、貧困層の自立を目的に「水」、「子ども」、「貧困対策」、「環境」及び「関連事業」の各項目において実施している。本会が実施する事業は「飲料水供給」を主軸とした地域開発・生活向上支援事業であるため、単年度事業の形態をとりつつもその効果については一定期間（数年から数十年）の業務継続を行なっている。

A. 『水事業』 —井戸飲料水供給—

1. 井戸・飲料水供給

本年度はアジア 9 カ国（インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ミャンマー、ラオス）の農村地域 55 ヶ所に飲料水のための井戸及びパイプライン 78 基を完成させ、安全な生活用水を確保することが出来た。水汲みの重労働により生産性を阻まれていた女性たちは、自立へ向け、内職や就業の機会を得ることができた。懸案事項であった、井戸建設支援実施基準や建設後の維持管理体制に関しては、これまでと同様に農村リーダー育成を行っていくこととしたが、研修などを更に積み重ね、リーダー育成を再強化していくこととした。

2. 調査研究

昨年に引き続き、バングラデシュ工科大学（BUET）の洪水、環境、水問題の研究に携わっている大学院学生に対して、奨学金の支援を行った。

洪水問題に関しては、本会バングラデシュの提携者の一人であるムンスールラーマン教授の開発した洪水防止柵（バンダル）がバングラデシュ政府に認められ、各地でその方法が採用され、洪水対策の一環として公式に認められ、普及が進められている。本会はこの開発のために研究資金を支援すると同時に、ワークキャンプを通して支援・協力体制を更に強化した。

B. 『子ども事業』 —貧困層の子どもたちへの初等教育普及および、いのちの質の向上支援事業—

アジア各地の貧困層の子どもたちへの支援事業として、「初等教育普及・向上事業」、「HIV/AIDS 感染症子ども支援事業」、及び、「栄養改善、ストリートチルドレン保護、教育環境整備等支援事業」等の事業を行った。

1. 初等教育普及・向上事業

経済的貧困のために、教育の恩恵を受けることが出来ない子どもたちへ、初等教育の機会を得るための支援事業を行った。

本会は教育里親制度（教育資金の提供）を通じて 2010 年度はアジア 5 ヶ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の児童 349 名の教育支援を行った。

貧困層の児童の多くは非識字な両親が多く、教育の重要性を理解することが困難である。また、子どもたちを学校に行かせるための教材や制服などの購入は経済的には大きな負担である。本会はそのような両親を対象に教育

の重要性を啓発していくと同時に負担と感じている教材や政府の購入に支援を充てるなどをして、児童に初等教育の機会を与えている。

2. 教育設備・環境整備

2010 年度はカンボジアに小学校校舎を 2 棟、ネパールに小学校図書室及び校舎 1 棟ずつを建設することが出来た。学校が遠距離で行かせたくないという両親が多い中で村の近辺に新たな校舎を建設することにより、両親の心配なく、より多くの児童が学校に通えるようになった。課題は校舎建設費の高騰化と校内の図書スペースに使用するための教材が欠けていることである。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

前年度に引き続き、現地提携団体の要請により南インド・タミルナード州ディンディガル地区の HIV 感染症の子ども及びその家族(条件として平均 3～5 人/世帯 収入 50 円以下)、10 家族を対象とする生活支援活動を実施し、HIV/AIDS にかかる医療費、栄養食の適宜の配布、HIV/AIDS 予防のための啓発教育などの支援が行われた。増加傾向にある HIV/AIDS 感染症の子ども及びその家族に対して本会がどこまで支援をし続けることが出来るのか、改めて再考しなければならない。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育環境整備

(1) 栄養改善〔ネパール〕

中南部チトワン地区ピトゥリ村で本年度も継続実施した。例年、実施している村の子どもたちへの給食支援は、学校の課程に組み込まれるようになり、子どもたちの栄養不足を補うばかりでなく、様々な教育的意味をふくめることが出来るようになってきている。今年度よりようやく政府からの給食支援が実施されるようになり、小学校 1～5 年生の子どもたちへは毎日一食が給食として支給されるようになった。

(2) ストリートチルドレンの保護(フィリピン)

元ストリートチルドレンの子どもたちが、路上での生活から開放され、様々な教育プログラムを受ける機会ができた。子どもたちの健全な成長につながっている。また、親を対象とした栄養改善プログラムにより、生活環境の改善が見られた。子どもたちの社会性が身につく、プログラムへの積極的参加をしたいという子どもたちが年々増えてきている。

C. 『貧困対策事業』 ―絶対的貧困状況からの脱却及び自立を目指す諸事業の推進―

1. マイクロクレジット支援・能力開発

2010 年度は、インド、カンボジア、ネパールに於いて女性の相互扶助グループ支援、マイクロクレジット、牛の銀行などの生活自立支援事業を実施した。地元の相互扶助がこれらの事業を通してより強化されてきた。

2. 職業訓練

2009 年度 1 月から外務省日本 NGO 連携無償資金協力の助成により、インド、カルナータカ州ビジャプール地区にて建設を開始した職業訓練学校が 2011 年 1 月に完成し、インド中央政府から公式な職業訓練学校の認可を受けることができた。中央政府の規定通りに、電気工、整備工の合計生徒 42 名を持つことができ、学校をスタートする。ビジャプール地区の農村における初めての中央政府認可の職業訓練学校のため、地元の人たちからも大きな期待が寄せられている。インドは高度経済成長期に入り、工業技術の発展に官民とも強化を図っており、技術発展寄与のために職業訓練学校には厳しい規定をかけており、機材面での更なる投資が求められている。その規定にどう答えていけるのが今後の大きな課題となっている。

3. 保健衛生指導・医療

(1) 簡易トイレ建設

ネパール(3 棟)及びバングラデシュ(3 基)にてトイレ建設を実施した。ネパールにおいては、小学校に建設することにより、生徒たちが当番制で清掃をするなど、教育的な側面に於いても非常に効果的である。バングラデシュに於いては、地元の衛生環境改善となった。

(2) 医療支援

ネパールのシンドウパルチョーク郡のスケテ村のスケテ診療所の運営支援を昨年度に引き続き実施した。

(3) 保健衛生教育

バングラデシュの地下水のヒ素問題の軽減策として、栄養摂取が効果的であるとの報告を受け、今年度本会は、味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの助成を受け、ヒ素問題と栄養改善の普及に必要な教材開発を開始した。二ヶ年プログラムの最初の年であり、本年度は専門家1名をバングラデシュに二度派遣し、教材開発に必要な状況調査及びワークショップを実施した。それと同時にニューズレター「アステアステ」(ベンガル語でゆっくりゆっくりの意)を発行し、日本国内における普及啓発も同時に行った。

4. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化のために、インド(RUDYA、BSVIA、HDSI)、カンボジア(KAFS)、スリランカ(SARVODAYA)、タイ(TAFS)の運営支援と活動強化指導を行った。

D. 『環境事業』 ―自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援―

1. 植林・水源涵養林養育支援

緑化支援事業として毎年継続して実施している。2010年度はアジア3カ国、(中国78,500本、ネパール2,900本、フィリピン2,940本)において実施した。地元の環境保全及び住民参加によるリーダー育成に貢献した。

2. 環境改善・市民による環境保全活動(国際グリーンスカウト運動)

地球環境保全戦略の一環として1986年に本会提唱の環境保全市民運動(通称、グリーンスカウト運動)は現在アジアの各地で徐々にではあるが広がっている。

2010年度は、インド、ネパール及びフィリピンにおいて様々な活動が行われた。

インドでは、インドグリーンスカウトが正式に政府登録され、Green Scout Indiaという団体が正式に設立され、インド国内のグリーンスカウト運動の普及と情報発信基地としての活動が期待されている。ネパールでは、ローカルグリーンスカウトの組織作り、小学校における環境教育などを行った。フィリピンにおいてはGSスカウト活動が広まり、独自で土と水と緑の学校を展開していくなど、今後GS活動に期待が高まっている。

この運動は地域住民の環境保全意識を喚起するねらいがある。アジア各地においても、“クリーン(clean)&グリーン(green)”キャンペーン運動が行われている。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

また、ネパールにおいてバイオガス・プラント事業の名の下に、年々増加する燃料としての木材資源の消費を抑えるため、及び健康上の理由(煙による諸種の弊害、例、眼病の防止等)からバイオガス利用を各家庭に奨励している。薪以外に生活燃料を持たない貧農家族への共同利用奨励事業としている。2010年度郵便貯金の国際ボランティアの配分金事業として支援をうけた。

昨年度、インド、カルナータカ州ビジャプール地区に於いて完成したハイブリット発電(風力とソーラ

一相互補完による発電)の電力配分の効率化と配線強化のために2010年度専門家を1名派遣し、配線整備を行った。これにより、電力が効果的に配分できるようなシステムの設置が完了した。

E. サイクルエイド事業

社会問題化している放置自転車の有効利用の一環として、開発途上国の社会活動に役立ててもらうために、中古自転車を必要として要請される地域に寄贈する事業。本会では2005年より大阪府の事業を受け継いで実施している。2010年度はタイ国の3地域(ノンタブリ県、ナン県、チェンマイ県)に330台、フィリピンのアルバイ州に350台の自転車を寄贈した。

各事業に関連して、ワークキャンプ(カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンにて4カ国15回)を実施。事業に伴い必要な海外視察が実施された。

II. 国際交流事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来のアジアのネットワークを担う各国の専門職員の研修、養成のために、奨学金支援を行っている。2010度は該当の奨学生がなく、第21回アジア・国際ネットワークセミナーの補助を行った。

2. 海外ボランティア研修生

2010年度は該当者がなく、海外ボランティア研修生による海外派遣は行っていない。

B. ネットワーク推進事業

「貧困無きアジア社会」の実現を目指して、アジアの人々と連帯していくための本会が誇る活動事業の一つである。アジアに「理解と協力と連帯」の輪を広げることが本会の各種支援事業の目的である。アジアのネットワークは単にアジア人のためだけを目的とするものではない。世界に対するアジア的貢献を目指し、アジアのネットワークを通じて世界に貢献できるアジア人(若者)の育成を図ることにある。

アジア夢基金の設立に伴い、上記のような人材が育っていき、本会のネットワークも18ヶ国60ヶ所にまで拡大した。

1. 国際会議

アジア国際ネットワークセミナー

2009年度、流行性インフルエンザの危険性により中止したアジア国際ネットワークセミナーが2010年度、大阪、奈良にて無事開催された。「貧困からの脱却」ーアジア草の根社会における相互扶助制度の確立と問題点についてーをテーマに議論され、ネットワークの連携や青少年の人材育成強化を通して、そのような問題点を解決していこうと言うことで一致した。総勢252名(海外からの招聘者49名)が参加した。

AFS 国際会議

本会が国際協力、海外支援事業を有効に実施・推進していくために、各提携団体相互の理解と協力と連帯が必要且つ有効であるとの認識から必要に応じて実施している。特に、環境問題や貧困問題等に共通する基本的ないしは根源的問題について、相互の研究会や技術的レベルの情報交換やスタッフの交流、活動や交流のための共通基金の創設等、各種連携は不可欠である。今年度は、国際グリーンスカウト指導者養成会議(タイ、ランパーン市)の開催、AFS(アジア友の会)インド地区協議会(ガッチオリ市)、カンボジア部会との交流・協議会(プノンベン市)、アジア・フレンドシップ基金第一回協議会(バンコク、ノンタブリ市)の計4回開催した。

アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金、“アジア・フレンドシップ夢基金”は 2010 年度から内外で本格的に募金が始まった年となった。国内においては 129 件 1,326,000 円 海外からは 19 件、649,388 円の募金がよせられ、資金の活用は 2011 年度からの予定。アジア・フレンドシップ基金国際管理委員会が 2011 年 2 月 12～15 日バンコク・ノンタブリにおいて開かれ、基金管理運営規則と 2011～12 年度管理委員（10 名）が選任された。当基金相当の募金能力を有する団体は誰でも参加が可能である。

アジア・ユースサミット

2011 年度のアジア・ユースサミットの開催に向けて、実行委員会の設立及び企画、広報及び開催準備が実施。当事業から派出したユースグループが中心となり、東日本大震災におけるチャリティ・プログラム（街頭募金、チャリティコンサートなど）を実施した。

2. 国際体験交流（スタディーツアー等）

アジア 3 カ国（インド、ネパール、ベトナム）において、交流ツアー 3 回を実施した。

Ⅲ. 生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

2010 年度は、2010 年 9 月にパキスタン北西部において発生した大降雨による水害の復興支援にて、シェルター、モスク、衣料配布、被災者のケア事業を実施した。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災にて被災した宮城県南三陸町歌津地区を中心に、初動調査、炊き出し、生活物資配布の事業を開始した（現時点に於いてもスタッフ及びボランティア（複数名）を派遣し、同事業を継続中。）当事業は特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施した。

Ⅳ. 普及啓発事業

本会の活動・事業に対する日本市民の関心と支援を得るためには普及啓発活動は欠かすことのできない重要な業務である。同時に、本会の活動・事業への関心を喚起することはアジア社会のみならず、国際協力やボランティアへの関心や認識を深めることに繋がり、ひいては国際理解や地球社会への関心を高め、日本市民の地球社会への市民的貢献を果たすことになる。かかる意味において、本会の広報活動は活動報告をはじめ、各種の学習会、勉強会や講演会、更には、開発教育や環境教育等多岐にわたる諸活動を行ってきた。

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) チャリティー・プログラム

会員が中心になって企画運営する事業（チャリティーバザーや JAFS the Party）は、本会の開発支援事業の資金的強化のみならず、親睦交流や会員活動の活発化につながっている。

(2) 国際理解教育授業

教育事業としては国際理解教育講座として、学校出前事業（講師派遣のべ 32 校、参加生徒数 2,626 名）、本会での校外授業（1 校、17 名）及び、国際理解教育セミナー（2 回、118 名参加）を実施した。また、大学 3 校（計 14 名）からインターンシップ・実習受入を行い、市民活動参加の機会を供給することが出来た。

(3) インド文化センター講座

講師などの都合がつかず 2010 年度連続講座を延期することとなった。

(4) アジア文化理解講座

アジア家庭料理教室では、アジア 13 地域、22 回の料理教室を開催した。のべ 432 名の参加を得た。

(5) 会員大会

第3回JAFS会員大会として、103名の参加のもと、様々な分野で1年間顕著な活動をした個人・グループへの表彰を行った。参加者同士が交流し、JAFSの活動を知ることが出来る機会となった。

(6) 国際協力ボランティア講座

JAFS 例会として、2008年度より海外プロジェクトを中心とした最新のJAFS活動を会員及び市民に紹介する機会を設けた。2010年度は合計10回開催し、のべ142名の参加を得た。

(7) 関連プログラム

2010年度は、ワン・ワールド・フェスティバル(国際交流センター)に運営委員として参加。多くの団体との連携の中、理事や運営委員として協力した。

2. 地区活動

国際協力を支援するためには市民の協力が不可欠である。そのためには地道な地域広報活動が必要となる。そのためには、本会の事業を支えていく会員(継続的支援者)の働きが不可欠である。本会活動の基本の一つである地域活動は地区世話人を中心に活動が実施されている。本会の事業・活動支援の推進役としての自覚とその働きは大きい。まさに市民型NGOの華であるといえる。

30周年事業を機に地域活動の活性化を図る事を目的にそれぞれ目標を定め地域活動を推進していくために「どうすいの会実行委員会」、「植林実行委員会」、「ウォーカソン実行委員会」という実行委員会中心とした体制で地域活動を展開した。本会の活動、理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し、多岐にわたり地域活動が行われてきた。中には活動15周年を迎える地域活動もあり、益々の広がりを見せている。

3. 広報

本会の活動・事業はその機関紙である、「アジアネット」及び会員活動情報誌である、「会員プラザ」をはじめ、ホームページ、インターネット広報など多種にわたり広報活動を行ってきた。

A. 機関誌

アジアネットを3回発行、会員プラザ3回3誌発行し、会員を含め広く活動を広報した。

B. インターネット

2010年度の社員総会を機にJAFSホームページを一新し、ワード感覚で更新が出来るようなシステムを採用し、ホームページの更新作業を円滑に行うことができた。メールマガジン7回発行された。JAFS地域の各HPやブログなどや話題となっているフェイスブックなどとも連携し、本会の広報活動に努めた。

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループが様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を精力的に展開していった。

5. 関連市民活動

関西ナショナルトラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の元、活動が活発に行われ、本会との活動の連携も様々な形で実施された。他機関とも積極的に活動を連携し、特に緊急災害時におけるジャパン・プラットフォームによる連携はますます強化され、本会の緊急支援活動に大きく寄与している。

B. 環境保全・啓発教育事業

環境保全・教育を中心に次世代の人材育成のために以下の事業が 2010 年度も実施された。

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は 2010 年に 27 年目を迎えた。参加者 72 名、リーダー、各種ボランティア等を含め総勢 150 名が参加し、自然環境へ親しむ心を育て、青少年のリーダーシップ育成につながった。

(2) 各部会活動

本会が提唱した国際グリーン・スカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーン・スカウトメンバーが活動を行っている。現在、国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方が部会を持つ。GS大阪は毎週水曜日及び土曜日に例会を開催、年 4 回のエコキャンプや環境プログラムの開催、リーダー研修を行った。GS吹田は、年 1 回の無人島キャンプ(事前、事後に研修のためのキャンプを 2 会開催)及びクリスマスキャンプを実施した。毎月 1 回の例会と吹田市の糸田川の定例の清掃活動を 12 回開催。GS 寝屋川・枚方に関しては、第 2 エリアの植林活動「北河内緑とふれあう会」に参加した。それぞれがグループの特色を活かして活動した。

(3) ウォーカソン

“地球の水と緑を守る”ためのウォーカソン(基本的には地区活動の一環として実施)を 7ヶ所で開催し、のべ 103 名が参加した。

(4) クリーンUP運動

2007 年度より始まった土佐堀クリーンUP 運動。6 回開催し、のべ 71 名の参加を得た。地域の住民や企業の参加が見られた。

V. 運営管理

本会の運営の責任母体は理事会である。理事会が決議し、事務局にて実施される。

本会理事会は会長、理事長の下に 11 の常置委員会があり、本会活動を管理運営している。また、評議員会も本会の政策諮問の役割を担う、シンク・タンクとして世話人を中心に活発な活動がなされた。

以上、ここに報告された諸活動は、ひとえに、理事、評議員、社員(正会員)、及び会員、協力者、一般の方々のご支援の賜物であることを確認し、感謝を持って、2010 年度活動概況をご報告申し上げる次第である。

Ⅰ．開発支援事業

Ⅰ－A．水事業

1．井戸・飲料水供給

(2011 年 3 月現在)

(パイプライン・貯水タンクを含む)

国 名	2010 年度完成	累 積
インド	10	444
インドネシア	—	44
カンボジア	27	269
スリランカ	4	77
タイ	—	88
中国	—	1
ネパール	10	110
バングラデシュ	4	129
パキスタン	—	8
フィリピン	20	333
ブルキナファソ	—	1
ミャンマー	3	14
ラオス	0	12
合計	78	1,530

インド

◆BSVIA カルナータカ州ビジャプール地区 2 基

電動汲み上げ式井戸 2 基

乾期の水不足が深刻なところに、女性や子どもたちの水汲みの重労働の解放と衛生・生活の改善を目指して、井戸の建設を実施。井戸から村へのパイプに関しては村人たちが自主的に設置し、今後も遠方までパイプを延長する予定。今年度、3 基を建設し、1 基が現在建設中。

カルナータカ州ビジャプール地区インディー村
カルナータカ州ビジャプール地区インディ ST 村

◆HDSI マハラシュトラ州アムラワティ地区 1 基

露天式井戸 1 基

乾期の水不足が深刻な谷沿いの乾燥地帯に水汲みの重労働と衛生・生活の改善を目的とした井戸の建設を実施。

マハラシュトラ州アムラワティ地区ドムニファタ村

◆RUDYA マハラシュトラ州ガッチロリ地区 1 基

露天式井戸 1 基

不衛生な川の水を生活用水として使用している村の人たちの衛

生の改善と水汲みの重労働からの解放を目指して、井戸建設を実施。

マハラシュトラ州ガッチロリ地区バテガオン村

◆SSH タミルナードゥ州 5 基

ポンプ式井戸 5 基

遠方まで水汲みをせざるを得ず、乾期になると水不足が深刻な村へ井戸建設を実施。水汲みの重労働からの解放と生活の改善が期待される。

タミルナードゥ州ディンディガル地区パンディヤン・ナガール村
タミルナードゥ州ディンディガル地区ブドウパッティ村
タミルナードゥ州ディンディガル地区シズール村
タミルナードゥ州ナマカル地区ジャヤンティコロニー村
タミルナードゥ州ディンディガル地区カラトゥパッティ村

◆RUNA ナガランド州 1 基

パイプライン (総計 7km) 1 基

過去 20 年間、安全な水が届かず、水不足が深刻な村へ総距離 7km のパイプライン及び貯水タンク 2 基を設置し、水汲みの重労働からの解放と生活の改善を行った。

ナガランド州コヒマ県ツェミニユ地区シシュヌ村

カンボジア

◆KAFS タケオ州 27 基

露天式/ポンプ式井戸 27 基

川やため池の水にて生活用水を得ている村の人たちの衛生、生活の改善を目的として、安全な井戸の建設を実施。

タケオ州トレアン郡プレイスルック地区プレイスルック村 (3 基)
タケオ州トレアン郡プレイスルック地区スレチュローク村
タケオ州トレアン郡プレイスルック地区トラパン・アン村
タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区ドムナックレアチア村 (4 基)
タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区クライン・カンダール村
タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区ダンカウ村
タケオ州トレアン郡クバブ地区タマダ村 (2 基)
タケオ州トレアン郡クバブ地区サモール・クロム村 (3 基)
タケオ州トレアン郡アンケオ地区オクラオンドゥール村 (2 基)
タケオ州トレアン郡ロネアム地区トメイ村 (2 基)
タケオ州トレアン郡ロネアム地区クラントベア村 (2 基)
タケオ州トレアン郡サンロン地区クロム村 (2 基)
タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区ソーチャン村
※第 2 回オムロン労組ワークキャンプにて実施
※第 13、14、15、16 回イオン労連ワークキャンプにて実施

1. 開発支援事業

※第9回パナソニック半導体労組ワークキャンプにて実施
※第3回(株)パスコワークキャンプにて実施

スリランカ

◆SARVODAYA スリランカ全域 4基
露天式井戸 3基
遠方まで安全な水汲みをせざるを得ない村へ、井戸建設を実施。水汲みの重労働の解放と生活の改善を行った。

バドゥーラ県アラワクンブラ村
ガンパハ県アルテポーラ村
ケガール県ブワクモタ村

ポンプ式井戸 1基
ガンパハ県ホラペ村

ネパール

◆GS ネパール 全域 10基
露天式井戸 1基
バグマティ県カトマンズ地区ニューネイカップ村

簡易水道付給水タンク式井戸 3基
バグマティ県カブレ郡トクチャ村(2基)
バグマティ県バクタプール郡スダール村(1基)

ポンプ式井戸 6基
ルンピニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村(6基)

バングラデシュ

◆RWF バングラデシュ全域 3基
ポンプ式井戸 3基
ガンジス(パドマ)川、ブラマプトラ(ジャムナ)川、メグナ川に囲まれた中州に位置する場所であり雨期の慢性的な洪水により生活が困難な地域である。不衛生な環境により下痢などの疾患が多い。本年度は3基の深井戸と浅井戸を以下の地域に建設を行い、850人175世帯が受益者となった。健康と衛生の改善と安全な水の確保、水くみの重労働の問題の解消が期待されている。
懸念されていると素の含有の問題に関しては、浅井戸は洪水による堆積層により出来た村はと素の含有が少ないという試験結果に基づき、浅井戸(約25m)を掘削している。内陸部に関しては深井戸(200m~300m)を建設し、試掘時の水質テストを行い、万全を期している。

ムンシガンジ県ディギルパル地区ダンコラ村
(深井戸1基、浅井戸2基)

※第7回パナソニックエレクトロニックデバイス労働組合ワークキャンプにて実施

◆BDP ボリシャル県 1基
ポンプ式井戸 1基
ボリシャル県マヒララ地区マヒララ村(深井戸)

フィリピン

◆KALIPI ヌエバエシハ州 19基
ポンプ式井戸 19基

稲作地帯が広がるヌエバエシハ州では、農薬・化学肥料が使われるため、深度の浅い井戸からは化学物質や生活污水が混入している。国連でも認定された25m以上の深さの井戸を掘削した。これにより、各地に安全な飲料水を提供できた。

ガパン町パンブアン村 ルバン・パンガラップ小学校
サンレオナルド町 マグ・パラヨック村 ブロック・ダビ
サン・インドロ町 マラピット村 ブロック2
サン・インドロ町 マラピット村 ブロック8
ハエン町 サン・ジョセフ村 タマナ・ブロック1
ハエン町サン・パブロ・ノルテ村 シティオ・マカプロ
サンレオナルド町タグンパイ村タグンパイ小学校
ハエン町ハエンセントラル村ハエン中央小学校
ハエン町サント・トーマス村シティオ・ルマナス
ハエン町ブトロッド村セカンド・ブトロッド小学校
サンレオナルド町アドラブル村ティバグ
カビアオ町サンフェルナンド・スール村ブロック6
カビアオ町サンフェルナンド・スール村ブロック・ブンディオ
カビアオ町サンフェルナンド・スール村ブロック・H. ムンサヤック
カビアオ町サンフェルナンド・スール村ブロック・ジミー・サントス
カビアオ町サンフェルナンド・スール村ブロック・エラディオ・カレオン
カビアオ町サンフェルナンド・スール村ブロック・E. デイビッド
カビアオ町サンフェルナンド・スール村ブロック・アルテミオ・ギャバシン
カビアオ町カビアオ・プブラシオン カビアオ国立高校

◆AFS-Virac,Catanduanes カタンドゥアネス州 1基
簡易水道付きポンプ式井戸 1基

カタンドゥアネス島の村々では、沿岸部に居住区があり、通常の井戸からは海水の混ざる水が汲み上げられる。そのため、山手に深井戸を建設し、モーターで汲み上げて3kmのパイプラインで家庭まで水を引くことができた。

カタンドゥアネス州ピラク町バルタ・スモール村

※NTT 労働組合東海総支部のワークキャンプにて実施

ミャンマー

◆MAFS ミャンマー全域 3基
露天式井戸 3基

川やため池の水を生活用水として使用し、水による感染症が深刻な村へ井戸の供給を実施。健康・及び生活の改善が期待される。

サガイン県シュウェイラボ村
サガイン県ザディ村
サガイン県タナン村

ラオス

◆LPRYU ラオス全域 0基

安全な水が設置されていない、ラオスの農村の小学校に子どもたちの衛生改善のために井戸建設を実施している。今年度は9基の建設が着工され、現在建設中。

I. 開発支援事業

建設中の井戸

18 基

インド	2 基
カンボジア	0 基
スリランカ	2 基
ネパール	2 基
パキスタン	0 基
バングラデシュ	1 基
フィリピン	0 基
ミャンマー	2 基
ラオス	9 基

2. 調査研究

◆RWF バングラデシュにおける水問題対策及び研究

バングラデシュ工科大学の水と洪水対策研究所において、水問題に対して研究及び地域調査を行い、対策への取り組みを行っている、研究員生の奨学金及び研究調査費を支援。また、同大学教授のムンスール・ラーマン博士が行っている洪水対策研究においても研究費の支援を行った。



水をくみにきた村の女性たち (バングラデシュにて)



井戸で水をくむ小学校の子どもたち (ネパールにて)



水をくむ村人たち (インドにて)



完成した井戸と村の人たち (カンボジア)



完成した電動式汲み上げ井戸 (インド)

I. 開発支援事業

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

アジア諸国において、教育に対する重要度が理解され、農村部においても就学率の向上が見られるようになってきている。しかしながら、低学年において就学率が高く高学年になり働くことができる年齢に達すると学業よりも一家の働き手として考えられる状況は依然多く、高等学校卒業まで就学を続ける率は農村部においては圧倒的に低い。また、きょうだいが多い家庭においては男子への教育が優先となり、女子への教育は後回しになっている状況は変わらない。このような就学問題は、こどもの問題よりも社会的背景、経済的理由である。子どもにとって「学校で学ぶ」ことは、成長していく上では必要不可欠である。そのこどもの権利を支援するために「アジア里親の会」を通じ一人でも多くの子どもが基本的な教育を受けることができることを目指している。

本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。里親には対象の教育施設に通う子ども（里子）を紹介し、手紙などによる相互交流を行った。2010年度は349人の里子を支援。

アジア里親の会 里親決定状況 (2011年3月現在)

国名	2010年度里子数	里子累計数
インド	98	232
カンボジア	79	103
ネパール	112	145
バングラデシュ	46	159
フィリピン	14	14
合計	349	653

インド

◆BSVIA 日印友好学園コスモニケタン プライマリースクール 32名

【カルナータカ州ビジャプール地区】

日印友好学園コスモニケタンの教職員給料、制服、教材費などの運営費を支援。

◆SSH JAFS 教育支援事業 52名

【タミルナードゥ州ディンディガル地区30名・ナマカル地区22名】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身がHIVに感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援。

◆RUDYA JAFS 教育支援事業 22名

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区】

マハラシュトラ州ガッチロリ県のパダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちは自宅よりの距離が通学できる距離ではないために寮生活が必然とされる。その寮生活の支援と継続して就学できる

ための支援を実施。

カンボジア

◆KAFS 教育支援事業 79名

【タケオ州、コンボンチュナン州、カンダール州】

コンボンチュナン州とタケオ州そしてプノンペン近郊のカンダール州にある小学校の運営支援、及び、子どもたちへの教材支援。里子を対象とした英語の課外授業の支援。

ネパール

◆GS-Nepal ビトッリ村小学校支援 21名

【ノールバラシ郡ビトッリ村】

ビトッリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ビトッリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援と学校運営支援。

◆ヤシャシュビ学園 54名

【カトマンズ郡シタパイラ村】

ヤシャシュビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、就学困難な子どもたちに就学の機会を与え、継続就学と高校教育修了を支援。

◆GS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 37名

【カトマンズ郡チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない子どもへの学費支援と学校運営支援。

バングラデシュ

◆BDP JAFS 教育支援事業 46名

【ダッカ・ミルプール地域、ガジプール地域】

ダッカ・ミルプール地域及び農村部のガジプールの子どもたちが個人負担費が多くなるために小学校以上の就学率が下がっている。それらの子どもの中等～高等教育の就学支援を実施。

フィリピン

◆ASI JAFS 教育支援事業 14名

【カビテ州ダスマリネス町パリパラン】

スラム街でストリートチルドレンとして生活をしていた子どもたちが移転政策後の不安定な生活の中、小学校での教育を受けることができるように学費や学用品などを支援。

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2011年3月現在)

I. 開発支援事業

国名	2010 年度建設数	校舎棟累計数
インド	—	20
インドネシア	—	2
カンボジア	2	41
タイ	—	10
中国	—	1
ネパール	1	19
パキスタン	—	2
フィリピン	—	7
ベトナム	—	3
合計	3	105

※学校数及び研修施設、コミュニティホール数を含む

ネパール

◆GS-Nepal 小学校図書室及び校舎建設事業 1 棟

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村ラーズラトナ小学校】

ネパール政府の指導により小学校に図書室の併設及び 8 年生まで（現在の小学校は 5 学年まで）の受け入れ態勢を整えることが必要となってきたが、教室の補充などは学校での対応に任されている。貧農村のピトゥリ村ラーズラトナ小学校は、その制度への対応が急務であったが自助努力では校舎の増設を実施できないため建設の支援をおこなった。校舎の完成により図書室の開設及び 1 学年増やすことが可能となり、教育の質の向上及び中等教育への進学者の増加が期待される。

※第 37 回ネパールワークキャンプで作業実施

カンボジア

◆KAFS 校舎建設事業 2 棟

【タケオ州キリボン郡コックブレッチ地区バム村】

【タケオ州トリアン郡ロネアム地区ソフィ村】

カンボジアの農村において学校が遠方である、校舎数が少ないなどの理由により、就学できない子どもたちが多くいます。より多くの子どもたちに就学の機会を与え、地域に貢献出来る人材を育成することを目的として、校舎建設を実施した。子どもたちの更なる教育への機会を提供することが期待される。

受益者数（バム村）： 381 人（内女性 177 人）

受益者数（ソフィ村）： 475 人（内女性 187 人）

(2) 教育環境整備

インド

◆BSVIA 日印友好学園コスモニケタン支援

【カルナータカ州ビジャプール地区ブルナプール村】

郊外の貧農地帯にある本会設立の日印友好学園コスモニケタン小・中学校（小学校児童数 351 名、中学 185 名、計 536 名）の子どもたちの教育資金を提供することができた。

本会ボランティアの現地報告によると、今年度は前年度に比較して小学校 54 名、中学校 13 名、合計で 67 人もの入学者が増えたとのこと。その理由として先生たちの指導方法が他の農村の学校と比較してとても良く、また、子どもたちも健やかに成長していることなどが、理由に挙げられる。子どもたちの成績がビジャプール地区で非常によくなったことなどが指摘されている。例年、上級

学校への卒業認定試験も 100% 近い合格率を維持している。

◆RUDYA 日印友好学園グラミン小学校

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区パダトラ村】

“森の民”といわれ、現在も原始的な採集生活を営んでいるアディバシー族の貧しい少数部族民の子どもたちが、適切な教育を受けることが出来るように 2001 年に完成した日印友好学園グラミン小学校。現在、小学生 1～7 年の 82 名がこの学校に通う。本年度は 3 名が家庭の事情により、辞めざるを得なかった。

本年度は、学校に通う生徒 82 名の制服及び教科書、学用品の供給、寮にかかる諸経費、及び教職員 7 名の給料を支援。2011 年度はマハラシュトラ政府の規定により 1 学年増加し、プライマリーレベルとして、1～8 年生までの子どもたちがこの学校に通うことになる。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

インド

◆SSH HIV/AIDS 支援 10 世帯

【タミルナドゥ州ディンディガル地区・ナマカル地区】

タミルナドゥ州ディンディガル地区、ナマカル地区は非識字層の移動労働者が多く、出稼ぎ先の都心部にて性交渉を持ち、HIV/AIDS に感染し、地元にて拡大させている。経済的貧困のために教育を受けることが出来なかったために、HIV/AIDS 感染を広げている。本会は HIV/AIDS の影響下及び感染している世帯を対象に支援を行っている。支援内容としては、抗 HIV 薬購入支援、栄養価の高い食材の購入、HIV/AIDS の啓発教育などを行い、HIV/AIDS 患者対応の支援だけでなく、感染防止のための啓発教育をかねる総合支援を行っている。

インドの急速な経済成長による貧富の格差の拡大と経済成長と移動労働者の広がりにより、HIV/AIDS の感染者に歯止めがかからない。NGO だけでなく、学校などの教育機関を通じた啓発教育強化が必要である。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育環境整備

ネパール

◆ラリット福祉センター JAFS 教育支援事業

【バグマティ県ラリットプール地区】

孤児や母子家庭の子どもを対象に教育の機会を提供している社会福祉団体の学校。教師 2 名の給料を支援。自力で就学することが困難な子どもたちが、学ぶ機会を得られるように支援を行った。

◆GS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村】

ネパールの農村では経済状況が不安定なため、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。特に成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分な状態である。健康状態や成長が改善されることを目的として、ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 200 名の生徒を対象に、毎週木曜日に

Ⅰ．開発支援事業

卵と牛乳の給食を継続的に支援を実施（16 年間）。学校のプログラムに組み込まれるようになり、子どもの栄養不足を補うだけではなく、様々な教育的要素を持つようになってきている。今年度よりは、ようやく政府よりの給食支援が実施されるようになり、小学1年生より5年生の子ども達へは毎日1品の食べ物が給食として支給されるようになった。しかし栄養的なフォローがされないために継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と就学前クラスの子ども達への給食支援を継続して実施した。

新たにピトゥリ村の小学校及びカブレ郡の子どもたちへの栄養知識の習得のためのプログラムを実施。スリーサンティ小学校の取り組みが地域教育の改善に役立っている事例から、今後、新規の小学校でも定着していくよう指導を行なっていく。

バングラデシュ

◆BDP 安全な水と栄養・健康に関する教材開発事業

【ボリシャル県アグルジョラ郡、ウジプール郡、ゴウルノディ郡】

バングラデシュにおける深刻な地下水のヒ素含有汚染に関して人間の身体への影響を軽減させるためには、栄養価の高い食物摂取が必須とされている。しかしながら、農村の多くの貧困層はどのような食物を摂取すべきかを知らない。栄養価の高い食物摂取の普及のために本会は学校機関を通して普及を図ろうと教材開発をしている。本年度は、教材開発のために2度専門家を派遣し、現地で育成できる栄養価の高い食物のリサーチ及び教材作成（紙芝居）のための伝統的な話のリサーチを行った。また、リサーチ内容を反映させるために、子どもたちを対象にワークショップを行い、教材開発のための材料が多く得られた。

当事業は2ヶ年事業であり、2011年度において、教材開発が完了し、現地の小学校に配布され、授業の一環として、その教材が使われることになる。

※2010年度味の素「食と健康」国際協力支援プログラム助成事業

フィリピン

◆ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町パリパラン】

2004年度より支援を行ってきたマニラ市内の国鉄の線路沿いに形成されたスラム街は、フィリピン政府の政策により、2007年の全国総選挙に伴い一斉に強制撤去された。南に約60km、車で2時間半のカビテ州ダスマリネス町への移転を余儀なくされた。

アジア里親の会のプロジェクトとして子どもたちの教育を支援、学校の授業に立ち遅れてしまう子どもたちには補助的な教育指導も行なった。また、環境教育のキャンプやユースリーダーリングのプログラム、家庭環境から来る精神的な不安に対してのケアも実施。その他、収入が低くても栄養のある食事ができることを目的として、母親を対象とした家庭菜園の指導、栄養改善の指導を試みている。



ネパールにおける栄養プログラムを実施しているところ
ルンビニ県ノールバラシ郡ピトゥリ村



フィリピンにおける教育支援プログラムを実施しているところ
カビテ州ダスマリネス町パリパラン



子どもたちと食習慣について調査を実施しているところ
バングラデシュ・ボリシャル県アグルジョラ郡

I. 開発支援事業

I-C. 貧困対策事業

1. マイクロクレジット支援・能力開発

インド

◆RUDYA 女性の相互扶助グループ (SHG) 事業

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区ボリ村】

アディバシー少数民族が多数を占めるガッチロリ地区において、生活自立支援のために Self Help Group (SHG=女性の相互扶助グループ、一グループ約 10 名～20 名) を結成し、貯蓄指導、少額貸付 (マイクロクレジット) へのコーディネート、リーダー育成などの指導を行っている。現在、約 40 の SHG を結成され、継続的に上記の指導を行っている。SHG リーダーも育成されてきており、村落開発に於いても中心的な人物になってきており、本会の進める開発事業にも大きな影響を与えている。

遠隔地のため、中間地点にスタッフを抱え、指導を強化する必要性のある SHG グループも幾つか存在しているが、本会の資金不足のためスタッフを抱えることが出来ないことが、現在の課題となっている。

2004 年度に Adarsh Cooperative Credit Society (アダーシュ協同組合銀行) が RUDYA の事務局長のカシナート氏の手で立ち上げられ、現在までに資本金 3,000,000 円を有するようになり、ボリ村にて少額貸付が必要な貧困層の人たち約 300 世帯をカバーできるようになった。同 SHG グループもこの銀行に貯蓄・貸付がされており、今後の発展に期待されている。

カンボジア

◆KAFS 26 世帯 5 グループ / 5 人

【タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区トラペアンサラ村】

本年度は地域の住民を対象に少額貸付を行なった。主な使用目的は、肥料の購入や養鶏・養豚を行うためである。10 年以上もこの事業は継続されており、多くの住民たちが生活の様々な局面においてこの事業を活用するようになってきている。また、村の中心を担う村落組合のメンバーも返金利息の一部を使い、灌漑用のため池や井戸作りを行うなど、自らがリーダーシップをとり、コミュニティの改善に努めている。

ネパール

◆GS Nepal 牛の銀行事業

10 世帯

【バグマティ県バクタプル郡スダール村】

農村部においてバイオガспラントの設置の要望が高くなって一方、牛または水牛を家畜として持たない世帯はバイオガспラントを設置することができないことが課題であった。バイオガспラントを設置することと貧農農家の収入安定のために乳牛の購入資金を貸し出す。牛乳の販売費より牛の購入資金を返し、その返金額は次の支援者へ貸し出す方式。今年は初年度として農家 10 世帯に貸し出した。

2. 職業訓練

インド

◆BSVIA 職業訓練学校校舎建設事業

1 棟

【カルナータカ州ビジャプール地区プルナプール村・マダバービ村】

昨年度の 1 月から外務省 NGO 無償支援資金の助成を受け、建設が開始された職業訓練学校。カルナータカ州全般における労働ストライキなどのあおりを受け、度々工期を延長せざるをえなかったが、2010 年 1 月に建設が完了し、必要機材導入が行われた。インド中央政府からも認可を受け、2011 年 8 月に正式に開校される。電気工、整備工の 2 コースが開設され、合計 42 名 (各コース 21 名) の生徒が入学することになっている。中央政府の認可を受け、電気工、整備工からの学生の就業率及び市場からのニーズも高く、現時点で生徒は既に集まっており、募集を締め切っているが、未だに入学希望者からの問い合わせが続いている。7 年後に政府から補助金が出され、教員の給与が賄われることになる。現時点では有償の職業訓練学校として学校を運営をする。

中央政府から認可を受けたために、政府の規定ごとに機材を揃えなければならず、工業技術の発展に伴い、機材への投資を行わなければいけない。このような投資資金をどのように収集し、マネージメントしていくか、また、学生の就業率を上げ、学校の評判をどのように維持していくかが今後の課題となっている。

(2009 年度日本 NGO 無償支援資金事業)

3. 保健衛生指導・医療

(1) 簡易トイレ建設

(2011 年 3 月現在)

国名	2010 年度完成	累積
インド	0	1194
カンボジア	0	4
バングラデシュ	4	275
パキスタン	0	6
ネパール	3	29
タイ	0	9
合計	7	1517

ネパール

◆GS-Nepal 学校トイレ建設支援事業

3 棟

【ルンビニ県ノールバラシ郡ビトッリ村ラーズラトナ小学校】

小学校でありながら長年、簡易トイレのみで学校運営を実施しななければならない状況にあり、子ども達の衛生面などが危惧された。そのため男子女子それぞれの対応のトイレ各 1 棟と教師用のトイレ 1 棟の計 3 棟を支援した、現在生徒たちが当番制で清掃をし、きれいなトイレ環境を保っている。

Ⅰ．開発支援事業

バングラデシュ

◆AFS-BIWM トイレ建設事業 4基

【ムンシガンジ県ディキルパル地区ダンコラ村】

不衛生な環境のために感染症が広がっている村にトイレを建設し、衛生環境と健康改善を行った。

※第7回パナソニックエレクトロニックデバイス労働組合ワークキャンプにて実施

(2)医療支援

ネパール

◆GS-Nepal スクテ診療所 運営支援事業

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡スクテ村】

医療機関の無かったスクテ村に1995年に本会の支援により建設されたスクテ診療所。しかし、反政府グループによる占領が原因で一定期間その機能を失っていた。2004年の再開後にも自主運営することが困難な状態が続いていた。そのため、診療所の働きに従事している看護師2名の給与を支援。自主運営のためスクテ診療所のバースセンター（助産所）登録をし、実施中。

4．道路補修

バングラデシュ

◆RWF 道路の補修事業

【ムンシガンジ県ディキルパル地区ダンコラ村】

ガンジス(パドマ)川、ブラマプトラ(ジャムナ)川、メグナ川に囲まれた中州に位置する場所であり、雨期の洪水により、道路の多くの箇所が陥没し、交通が困難になっている。道路の補修により、子どもたちの通学、男性の農地への通勤、女性の市場への交通など、約850名にとってのアクセスが容易となった。

※第7回パナソニックエレクトロニックデバイス労働組合ワークキャンプにて実施

5．提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークの各国部会(NGO)の活動を強化は必須である。しかし、発展途上国ではNGOの自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

◆RUDYA (インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

◆BSVIA (インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。

◆HDSI (インド)

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助した。

◆TAFS (タイ)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所経費も本会で負担。

◆KAFS (カンボジア)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

◆SARVODAYA (スリランカ)

サルボダヤの組織の中で地域開発を実施している農村開発支部(CCBU)のプログラムを総括的に支援。村の中で様々なワークショップ、無償奉仕キャンプを行い、村の人たちの自立を支援



ネパールにおける牛の銀行(牛の引き渡し式)
バグマティ県バクタプル郡スダール村



バングラデシュ・道路補修作業の様子
ムンシガンジ県ディキルパル地区ダンコラ村

I. 開発支援事業

I-D. 環境事業

地球規模で温暖化が進む今日、植林事業は温暖化防止、地球環境保全に重要な役割を果たしている。植林は地下の保水力を高めるという効果があり、私たちが生きていく上で必要な水の確保にも繋がる事業である。

これまで本会は「井戸を贈る運動」として水源を求めて安全な飲料水を贈ってきたが、2002 年度より、水不足の根本的な解決策として、また、地球環境保全運動の一環として、「水源の森をつくらう」をテーマに、毎年苗木を植え、「JAFS 水源の森計画」を行なっている。併せて、防災を目的とした植林や、コミュニティーフォレストとして荒地を住民の手で緑化し、地域に役立つ森づくりを目的とした植林を実施している。

1. 植林・水源涵養林養育

(1) 植林

(2011 年 3 月現在)

国 名	2010 年度植林	累 積
インド	—	712,205
インドネシア	—	193,960
カンボジア	—	6,000
スリランカ	—	400
タイ	—	20,500
中国	78,400	1,027,425
ネパール	2,900	287,061
パキスタン	—	4,560
フィリピン	2,940	81,345
バングラデシュ	—	26,500
合計	84,240	2,359,956

フィリピン

◆AFS-Pandan パندان水源の森プロジェクト 770 本

【アンティーク州パナイ島パندان町】

2003 年度より開始した水源の森保全プロジェクト。今年度は、ランソネス、ランブータン、グヤバノ、アボカド、カラマンシー、マコパ、アティス、サントル、カシュー、ボメロ等の果樹計 770 本の植林を行なった。

これまで植林した木々が成長し、果実をつけ始めている。地元民の収入源となってきた。また、木々を伐採しての生活から、育てての生活へと意識の変化が見られる。また、現地の女性たちによる維持管理の体制ができてきており、月 1 回水源管理グループによる草刈り、苗木の成長の確認が行なわれている。

※第 7 回京都暁星高等学校ワークキャンプで植林実施

※第 12 回フィリピンパندان国際交流キャンプで植林実施

◆AFS-Virac, Catanduanes パロンバネス島水源の森プロジェクト 2,170 本

【カタンドゥアネス州カラムラン町トイトイ村パロンバネス島】

漁村の島、パロンバネス島。島の 7 割は、焼畑、森林伐採が進み、現在では禿山が広がっている。その影響は表土の侵食、洪水の増加、サンゴ礁の破壊、水不足、海の汚染、魚の減少などとして出てきている。

昨年に引き続き、植林プロジェクト 5 年目を迎える。天然環境資源省の専門家を講師に環境セミナーを開催し、島の総合的な環境保全を行なった。環境保全に対する地元住民の意識向上と協力体制の高まりが感じられる。水源付近に管理小屋を設置し、水道と苗木の双方を維持管理している。

今年度は、コナツ 150 本、アカシア 20 本、マホガニー 2,000 本の計 2,170 本を植林。

※第 5 回フィリピンパロンバネス国際ワークキャンプにて植林実施

中国

◆CHAFS 甘肅省小隴山の長江・黄河上流のコミュニティによる環境保全植林モデル事業 78,400 本

【甘肅省天水市】

本年度から開始された事業であり、当初は長江・黄河上流に位置する小隴山の水源保全のための植林事業としてスタートする予定であったが、同地区が四川地震の被災地となったために、事業内容を変更し、水源保全及び災害復興支援事業としてスタートした。

本年度は油松、白皮松、遼東ナラ、胡桃を合計 78,400 本植林し、昨年度課題となっていた、四川地震被災者のための胡桃の生産のための研修を強化した。

※平成 21 年度日中民間緑化協力委員会資金を受ける。

ネパール

◆GS-Nepal コミュニティー フォレスト 100 本

【ルンビニ県ノーラパラシ郡ピトゥリ村】

環境を守るためには、村の住民たちが自分たちの手で森を守る考えがあるかどうか深く左右される。地域がコミュニティーフォレストに取り組んでいることで、苗木の定植に大きく寄与している。かじつ販売による収入を現地の学校の運営費、村の必要経費に当てることももう一つの目的である。

今年度は、水源涵養林のボカイノを植林した。

◆GS-Nepal コミュニティー フォレスト 2,000 本

【バグマティ県バクタプル郡スダール村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を、引き続き実施。コミュニティーフォレストとして地域の森作りを以前より実施しているが、一種類の木の植林により森の植生が異常な状況になっている。森再生を目的に村人と地域の学生及びピトゥリ村の学生の参加

1. 開発支援事業

による植林を実施。平野地域の子どもが山間地の植林を経験できる学習の機会ともなった。ネパール自生のロブシーの木を始め葉草として用いられるドゥピサッラ、コプール等計 2,000 本植樹した。

※第 36 回ネパールワークキャンプで植林実施

◆GS-Nepal コミュニティー フォレスト 800 本

【バグマティ県カトマンズ地区チュニケル村】

地域住民の手による植林活動、コミュニティフォレストづくりを 1996 年より実施している。住民の環境意識の向上が高まった中、青少年の環境意識を高めるため、グリーンスカウトの活動としてナウリン中学校高等学校の学生が植林活動を実施。今年度は 6 月末にドゥビー、カインヨ、ウッテース、サッラ、マサラ等の 800 本の水源涵養木、農業用木を植林した。

◆GS-Nepal 育苗センター

【ナラヤニ県チトワン郡ラトナナガル市 5 地区】

「朝日読者の森」として森林破壊が著しいネパールにて 2001 年より森作り事業を実施。5 年計画の終了後、農村地域に貢献できるセンターづくりと地域の森林面積の復活を目指して JAFS ランドと称したエリアにアグロフォレストリーを実施。維持管理と共に、ネパールでの植林活動を広げる為に、1,000 本を育苗。各植林プロジェクト地の苗木としても利用。モデルケースとなる地域農民との連携による農園づくりを目指し更なる計画を調整中。朝日新聞社 朝日会の継続支援により実施。

2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト (GS) 運動とは「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986 年に本会が提唱。

アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFS の海外ネットワークを通じて国際的に展開。アジアの各地に草の根市民による環境保全活動を広げることが目的としている。

以下は、各国 (日本を除く) の活動状況。

インド

◆GS-India 環境保全啓発

【マハラシュトラ州ガッチャオリ地区】

インド国内において人々の環境意識を高め、環境保全活動を普及していくために、本年度 Green Scout India (GS-India) の本部が設立された。GS-India が中心となり、環境保全運動普及啓発に必要な情報の収集基地となり、様々な運動が展開されることが期待されている。

ネパール

◆GS-Nepal 小学生環境セミナー 8 校

【バクタプル郡スダール村、カブレ郡トクチャ村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村】

GS 活動を行う小学生対象の環境セミナーを 2 回実施。その 1 回目は 8 月にスダール村にて現地の小学校 2 校及びチュニケル村の 1 校の小学生、平野部のピトゥリ村より 3 校の計 6 校の小学生が集合し、環境活動の成果と今後の理想の学校と地域作りに関して発表を実施。日本の学校や地域での取り組みに関して今後の活動の参考になるレクチャーをおこなった。

カリカ小学校 (スダール村 会場校)、マハンカル小学校 (トクチャ

村)、ナウリン小学校 (チュニケル村)、スリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校 (以上 3 校ピトゥリ村) 小学生各校 6 名

2 回目は 12 月にピトゥリ村にて実施。8 月とは反対に山間地の子どもが平野の状況を学ぶと共にピトゥリ村にて現在まで実施している活動を子ども達による劇にて発表してもらい環境に関する知識を分かち合うプログラムを実施。参加した学生がそれぞれの学校にてリーダーとして活動を実施できるように促した。ピトゥリ村よりは初回参加の 2 校の小学校が加わり、地域による広がりが見られた。

カリカ小学校 (スダール村)、スリーサンティ小学校 (ピトゥリ村 6 地区・会場校)、ラーズラトナ小学校 (ピトゥリ村 4 地区)、ピトゥリ小学校 (ピトゥリ村 9 地区)、カリカ小学校 (ピトゥリ村 4 地区)、サントウ デビラストリヤ小学校 (ピトゥリ村 1 地区) (以上 5 校ピトゥリ村) 小学生各校 5 名

◆GS-Nepal ローカル GS 組織づくり

【バクタプル郡スダール村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村】

農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカル GS づくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。

ピトゥリ村 GS は、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して行う。新規 2 校の参加により地域の広がりが期待できる。

チュニケル村 GS は、コミュニティフォレスト活動を通じ子どもたちが地域の環境保全に繋がるとし、毎年 GS として植林活動を実施。

スダール村 GS は美化活動の取り組みと地域の環境活動への参加としてコミュニティフォレストにて植林を実施。地域のクラブ的な活動としてリーダー育成をも目指している。

フィリピン

◆ASI 有用微生物を活用した環境保全プログラム

【リサール州アンゴノ町、ピナゴナン町、カルドナ町】

2008 年 7 月にリサール州ピナゴナン町で行なった有用微生物 (EM 菌) の活用と有機農法のセミナーをきっかけに、地域青少年によるグリーンスカウトが組織。地元で取れる有用微生物を研究し、確保と培養を行なった。また、グリーンスカウトの青少年だけでなく、ラグナ湖周辺の漁業、農業、畜産業を営む住民と共に、ラグナ湖の浄化を目的とし、ラグナ湖に注ぐアンゴノ川の清掃活動を実施。有用微生物を含んだボール (ぼかし) を約 10,000 個を作成、川へ投入。一昨年暮れに起こった大型台風での水質汚染も汚濁度と汚臭度の減少、水質の向上が見られ、改善されてきた。

◆ASI グリーンスカウト活動紹介プログラム

【リサール州アンゴノ町、ピナゴナン町、カルドナ町、カピテ州ダスマリネス町バリバラン】

16 歳以上のグリーンスカウトメンバーの地域代表 (リーダー) 20 名を対象として、自己能力開発・環境保全セミナーとワークショップを 10 のカテゴリー別実施。グリーンスカウト地域代表メンバーはその学んだ内容を地域に持ち帰り、年下の子どもたち平均 10 名に対し同様のプログラムを実施した。グリーンスカウトの活動の意義・活動が広まった。

Ⅰ．開発支援事業

■KALPI 財団 環境意識啓発

【ヌエバエシハ州サンレオナルド】

1. 年間を通じて、環境に関する世界中の記事を AFS ニュースレターとして AFS メンバーに発信。また併せて、政策提言も行っている。
2. アースデイには、地方行政と学校に呼びかけを行い、温暖化ガスの排出を少しでも少なくするために、1 時間の消灯を行った。
3. 地方行政や団体に対して、KALPI 財団が環境についてのコンサルタントの無料提供を行った。

3．再生可能エネルギー資源活用・普及

インド

◆BSVIA ハイブリッド発電機修繕事業

【カルナータカ州ビジャプール地区】

昨年度に日印友好学園コスモニケタンに設置されたハイブリッド発電機（ソーラー及び風力の併用による発電機）同校の寮生たちが停電時に使用出来るようになった。本年度は発電効率を高め、図書室及び給食室にも発電できるように配線を行い、防雷電用のパイプを通し、ハイブリッド発電設備の強化を行った。

ネパール

◆GS Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 84 基

【バグマティ県】

人口増加と同時に森林破壊が進み、その歯止めとしての代替燃料の確保が急務となってきた。資源が少ないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスの普及が、確実な燃料確保につながることに期待されている。農村に住む人々の生活改善（薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善、発酵後のスラリーは農業に欠かせない堆肥となる）にも大きく寄与している。

また、講習会を実施することで、住民のバイオガスプラント設置普及に対する理解と環境問題への関心に繋がっている。結果として近隣村にも理解が広がってきている。

効果として、1 基の設置につき、薪の年間使用量と 1 世帯当たり 4,000Kg の使用量の内 70～90%削減することができる。このことは、国土の 30%台にまでに減少（以前は 70%）した森林面積の回復にも繋がる。同時にトイレの併設も進み、農村地区での衛生向上にも繋がっている。効果は広がり、設置希望が年々増大している。

・バクタプール郡スタール村	19 基
・バクタプール郡バゲソワリ村	16 基
・カブレ郡トックチャ村	49 基

※内、81 基は平成 21 年度国際ボランティア貯金に係る寄附金の配分を受ける。

※かんでん NGO ネットワークきょうと ネパール第 5 次ワークキャンプ実施により継続的支援を受ける。

【2010 年度 計 84 基設置 累計 954 基設置】



フィリピン・水源の森植林の実施
パロンバネス島



ネパール・バイオガスプラント建設
バグマティ県



甘粛省天水の植林事業

I. 開発支援事業

I-E. サイクル・エイド事業

1. サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は、年間 50 万台に上り、うち約半数は引き取り手がないために大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リデュース・リユース・リサイクルの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005 年度より、社団法人アジア協会アジア友の会が事務局となり事業を実施。大阪府などがメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計 670 台(前年度繰越分 30 台 計 700 台)
放置自転車を収集するために、府内各市町村への協力呼びかけを行い、今年度は下記の 6 市から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、コンテナに積み込まれ、海上輸送で寄贈先に送られた。提供総数の内、20 台に関しては次年度に送ることとなった。

堺市 140 台 (2011 年1月)、八尾市 200 台 (2010 年 10 月、2011 年1月)、阪南市 120 台 (2010 年 10 月)、泉大津市 100 台 (2009 年 10 月、2011 年1月)、高石市 80 台 (2010 年 10 月、2011 年1月)、四條畷市 30 台(2010 年 10 月)、前年度繰越分 30 台

平成 22 年度は合計 680 台の自転車が、フィリピン、タイの 2 ヶ国に寄贈された。事業開始以来、アジア、アフリカの 9 ヶ国に合計 26,038 台の自転車を贈ることができた。

タイ 330 台 (2010 年 10 月)
フィリピン 350 台 (2011 年2月)

タイ 330 台

2010 年 10 月 ナン県、チェンマイ県、ノンタブリ県 330 台

タイへは 2010 年 10 月にナン県に 50 台、チェンマイ県に 163 台、そしてバンコク近郊のノンタブリ県に 117 台、合計 330 台の TAFS(※注1)自転車が贈られた。自転車は子ども達の通学を中心に、各地域の自立支援センターや地域のために働くコミュニティワーカーに贈られ、貴重な移動・運搬手段として活用されてい

る。

学校から 10km 近く離れたところに住む子ども達が多いこの地域では、学生の通学や公共交通機関の費用を払えない人々の移動を可能にし、村の貧しい家族達の自立を助けている。また、車やオートバイと違い、空気を汚さず燃料を節約するので、環境に優しく、地球温暖化防止する乗り物として喜ばれている。

ナン県ではこの事業をきっかけとして、20 村でほとんどの家庭が生活の中で自転車を有効に活用し、12 月 6 日には EDEN(ナンで自然について学ぶ環境開発)で地球温暖化防止のキャンペーンが行われ、人々の意識が少しずつ変わってきている。

自転車を通して地球温暖化防止に取り組む人々の輪が広がるとともに、タイと日本の相互理解につながっている。自転車は地域の大学生を中心に定期的にメンテナンスが行われ、より安全にそして長く使えるように大切にされている。

今後も地球全体のことを考えながら、地域の福祉環境の向上と開発をすすめていくために、自転車が必要とされている。

【自転車配布先一覧】	合計 330 台
チェンマイ県	163 台
インターナショナル スクール	2 台
バン チアット マイ	35 台
サンティサック	50
プロンスロイヤルスクール	15 台
ポーシ ムピクル スクール	10 台
ウドン クリスチャン ウィタヤ	1 台
ウドン クリスチャン スエク	2 台
タイ キリスト教会	22 台
チェンマイ村人	26 台
ノンタブリ県	117 台
自立支援センター スファンブリ	21 台
チョンブリ	16 台
ラヨング	11 台
ロエイ	2 台
コンカエン	2 台
バン クアン ロー	3 台
ナコン ナヤック	5 台
チャチョン サオ	2 台
ランパーン	2 台
サ カエウ	2 台
ムアング	49 台
ナン県	50 台
ウィアン サ 村人、学生	50 台

フィリピン 350 台

2011 年2月 ルソン島ビコール地方アルバイ州タバコ市 350 台

2011 年2月に AFS マニラ(※注2)を通して、ルソン島南部のビコール地方アルバイ州タバコ市に 350 台の自転車が贈られた。アルバイ州は北の南カマリネス州と南のソルソゴン州の間に位置し、

I. 開発支援事業

美しいという意味のピコール語「マガヨン」から名付けられた世界的に有名なマヨン火山がある。アルバイ州には 2,000 年以上前から定住者がいたといわれており、それを証明する多くの遺跡がある。

アルバイ州の主な産業は農業で、住人の多くは農業に従事している。州都はマニラ麻製のスリッパ製造で有名なレガスビ市。

自転車はタバコ市のバランガイ(フィリピンの最少行政単位)の自警団や保健婦、地域のコミュニティワーカーに贈呈され、治安や医療環境の改善に役立てられている。また、各バランガイの小学校の子どもたちに贈られ、今まで学校に通うことが難しかった子ども達に就学の機会をつくることができた。

自転車は、より安全に子ども達が通学できるように学校で管理され、より必要としている子ども達が使えるように配慮されている。

【自転車配布先一覧】 350 台

タバコ市 バランガイ(フィリピンの最少行政単位)	205 台
ファティマ	5 台
スアイゴット	5 台
パナル	3 台
グイノバット	4 台
サンアントニオ	5 台
コモン	5 台
クイナステッロジャン	5 台
ヴィジタ	5 台
ブヒアン	5 台
マガポ	5 台
サンヴィセンテ	3 台
サンカーロス	3 台
マリロック	5 台
タガス	3 台
コボ	5 台
バンガボン	4 台
サンローズ	3 台
マタンバク	5 台
バスッド	3 台
サンロレンゾ	4 台
バコロッド	5 台
ブアング	5 台
バランガワン	3 台
サンイシロド	4 台
マリクタイ	5 台
ハシエンダ	5 台
ストクリスト	5 台
ディヴィングロストロ	13 台
バサガン	5 台
オラス	5 台
パンギリンガン	3 台
ピナボボング	5 台
タビグアン	5 台
ボムボン	3 台
パワ	5 台
オソン	5 台
アグナス	5 台
バンタヤン	5 台
サグロン	5 台
カバンガン	4 台
サルバシオン	3 台

タヤハイ	3 台
ラウイス	5 台
サンラモン	5 台
ボノット	5 台
コルミダル	3 台
サンジュアン	3 台
クイナレ	3 台
タバコ市 学校	145 台
タバコ南中央小学校	25 台
タバコ北西中央小学校	25 台
タバコ北中央小学校	25 台
バランガワン小学校	10 台
バスッド小学校	10 台
カバンガワン小学校	10 台
コボ小学校	10 台
サンラモン小学校	10 台
ファティマ小学校	10 台
サンローズ小学校	10 台

■堺大魚夜市

日程:2010 年 7 月 31 日(金)13 時～21 時

場所:大浜公園

主催:堺大魚夜市実行委員会

【堺市自治連合協議会、堺商工会議所、(社)堺高石青年会議所、(社)堺観光コンベンション協会】

後援:堺市ほか

来場者数:約 240,000 人

<内容>

堺 700 年の歴史、伝統文化の継承、市民・企業・行政の協働、地域社会との共生、世代間の調和と交流、堺の伝統産業の PR をコンセプトに毎年 7 月 31 日に開催されている堺大魚夜市では、堺大魚夜市実行委員会の多大な協力のもと、ブース出店を行った。事業開始当初より、自転車の町として再生自転車を数多く提供いただいている堺市の市民の方に本事業の紹介、説明を行い、理解を深めた。また、サイクル・エイド事業の活動紹介を行うとともに、アジアの民芸品、飲食の物販を行い、海上輸送への協力を得ることができた。

■泉大津フェニックス野外コンサート

日程:2009 年 8 月 28 日(土)、29 日(日)、9 月 4 日(土)

場所:泉大津フェニックス

主催:泉大津フェニックス夏フェス 10 実行委員会事務局

来場者数:合計 約 35,000 人

<内容>

泉大津フェニックスが誕生した新しい町「夕凧町」では、空と海、そして全面芝生という心地よい空間で、野外コンサートをはじめとした各種イベントが開催されている。今年度は 8 月 28 日(土)には Char、山崎まさよし、押尾コータロー、BUCK-TICK、佐藤タイジ (THEATRE BROOK)、クレイジーケンバンド、木村充揮等が出演する『GREENS SPECIAL』を開催。8 月 29 日(日)には AA=、ACIDMAN、BOOM BOOM SATELLITES、Drago Ash、FRONTIER BACKYARD、the HIATUS、Northern19、the Telephones、サカナクション、ストレイテナー他が出演する『RUSH BALL 10』が、多くの来場者を集めて行われ、多くの音楽ファンを魅了した。さらに、9 月 4 日(土)には BEAT CRUSADERS、THE BAWDIES、MONGOL800、アナログフィッシュ、aflood circle、長田進 with GRAPEVINE、Cocco、怒髪天、THE BACK HORN、

I. 開発支援事業

POLYSICS、ミドリ等が出演する、『OTODAMA 10』が開催され、多くの来場者があった。コンサート主催者、泉大津フェニックス夏フェス 10 実行委員会事務局の多大なるご協力のもと、会場内のブースでサイクル・エイド事業の活動紹介と物販を行い、海上輸送への協力を得ることができた。

■サイクル・エイド募金箱の設置

再生自転車の海外輸送費を確保するため、大阪府パスポートセンターに募金箱を設置し、府民に寄付の呼びかけを行った。

日程:2010年4月1日(木)～2011年3月31日(木)

場所:大阪府パスポートセンター本所

■松原ワールドフェスティバル 2010

日程:2010年11月7日(日)10:00～15:00

場所:大阪府松原市松原市役所界限にて

主催:松原ワールドフェスタ実行委員会

後援:松原市、松原市教育委員会

協賛:松原国際交流まなびネット、松原市ボランティア連絡会、

松原保育運動連絡会、松原防犯協会、松原ライオンズクラブ

来場者数:約3,000人

<内容>

民族音楽や料理など世界の国々の異文化や外国人留学生とふれあいを通して国際交流をめざす「松原ワールドフェスティバル 2010」でパネル展示を行い、活動紹介を行った。会場では世界の音楽ライブコーナーや世界の料理コーナー、各国紹介文化交流のコーナーがあり、多くの方に来場いただき、事業への理解を得ることができた。

■寝屋川多文化フェスタ

日程:2010年12月4日(日)10時～15時

場所:寝屋川市立北小学校

主催:ねやがわ発!!-みんなおいでよ多文化フェスタ-実行委員会

後援:寝屋川市、寝屋川市教育委員会、ほか

来場者数:約1,000人

<内容>

昨年に引き続き、『第3回寝屋川多文化フェスタ』が企画され、多文化共生社会の実現に向けて、ステージでのアトラクションや模擬店、パネル展示、物産展等が行われた。ブース出店を行い、近年、再生自転車を数多く提供いただいている寝屋川市の市民の方に、本事業の説明を行い、理解を深めた。また、親子連れなどの方々から海上輸送への協力を得ることができた。

■大阪家庭裁判所「自転車盗等被害を考える講習会」

日程:2010年5月18日、6月15日、7月13日、9月14日、10月19日、11月16日、12月14日、2011年1月18日、2月15日、3月15日

場所:大阪家庭裁判所

<内容>

自転車盗難に関わった青少年とその家族を対象に、自転車の大切さを伝えるサイクル・エイド事業の啓発活動を実施。月に1回、サイクル・エイド事業で自転車を届けている子どもたちを取り巻く状況や自転車を贈った後の生活の変化を伝えることによって、放置自転車や自転車盗難防止の意識付けとともに、青少年の健全な育成につとめた。

■大阪府立中央図書館「今、アジアが動いている!!」

アジア未来注目展～草の根市民交流でつくる連帯の輪～展示

日程:2010年7月21日(水)～8月1日(日)

場所:大阪府立中央図書館 1F展示コーナー

共催:大阪府立図書館、(社)アジア協会アジア友の会

来場者数:約3,000人

<内容>

日本はアジアの一員であり、永い歴史のなかで、それぞれの国・地域で特色ある豊かな文化が育まれてきた。子ども達の瞳を通して描かれた絵画でアジアの魅力の一端を感じると同時に、アジアの現実も学べる展示会として開催。「アジアちびっこ絵画」の展示とアジアの現状と子どもたちのためのプロジェクトの紹介を行った。ストリートチルドレンの支援や HIV 子ども支援、学校に行けない子どもたちを支えるサイクル・エイドの紹介、アジアの教科書展示やアジア生活を体験できるプログラムを行い、より身近に協力の状況を知ってもらう内容となった。

■アジア国際ネットワークセミナー参加、大阪府表敬訪問

【第21回アジア国際ネットワークセミナー】

開催期間:2010年10月10日(日)～10月14日(木)

10月13日(水):大阪府表敬訪問、今後の活動について相談

※(財)JKAによる「競輪公益資金」の補助を受けて実施



安全に自転車に乗れるようメンテナンスを行う学生達
タイ チェンマイ県



自転車を待ちわびる学生達
タイ チェンマイ県

資 料

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

本年度は4カ国で15回に亘って実施し、延べ231人が参加した。以下、実施日時順による。

1. イオン労連第13回カンボジアワーキングキャンプ (カンボジア)

期 間:2010年5月25日～5月27日

場 所:タケオ州トリアン郡プレイスルック地区プレイスルック村

参加者:22名

内 容:井戸建設、交流

2. イオン労連第14回カンボジアワーキングキャンプ (カンボジア)

期 間:2010年6月1日～6月5日

場 所:タケオ州トリアン郡ロネアム地区クロントベア村

参加者:27名

内 容:井戸建設、交流

3. 第36回ネパール国際ワークキャンプ (ネパール)

期 間:2010年8月5日～8月14日

場 所:バグマティ県バクタプール郡スダール村 カブレ郡トクチャヤ村

参加者:5名

内 容:植林、環境プログラム、子どもとの文化交流会、牛の銀行、バイオガスプラント設置及びプロジェクト視察

4. かねでん NGO ネットワークきょうと

第5次バイオガスワークキャンプ (ネパール)

期 間:2010年9月20日～9月28日

場 所:バグマティ県バクタプール郡スダール村

参加者:8名

内 容:バイオガスプラント設置ワーク、プロジェクト視察、交流

5. オムロン労働組合カンボジアワークキャンプ (カンボジア)

期 間:2010年11月3日～11月7日

場 所:タケオ州トリアン郡ブランベイマム地区ドムナックレアチア村

参加者:26名

内 容:井戸、交流

6. 第7回京都暁星高校ワークキャンプ (フィリピン)

期 間:2010年9月21日～9月28日

場 所:パナイ島アンティーク州パンダン町

参加者:21名

内 容:植林、交流

7. イオン労連第15回カンボジアワーキングキャンプ (カンボジア)

期 間:2010年11月16日～11月20日

場 所:タケオ州トリアン郡ブランベイマム地区ドムナックレアチア村

参加者:19名

内 容:井戸建設、交流

8. イオン労連第16回カンボジアワーキングキャンプ (カンボジア)

期 間:2010年11月23日～11月27日

場 所:タケオ州トリアン郡サンロン地区クロム村

参加者:22名

内 容:井戸建設、交流

9. 第37回ネパール国際ワークキャンプ (ネパール)

期 間:2010年12月23日～2011年1月1日

場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村

参加者:7名

内 容:小学校教室建設支援、バイオガスほか農村開発プロジェクトの視察、子ども環境セミナー参加、交流会

10. 第12回パンダン国際交流キャンプ (フィリピン)

期 間:2010年12月26日～2011年1月1日

場 所:パナイ島アンティーク州パンダン町

参加者:4名

内 容:植林活動、新提携団体組織、交流

11. 第8回NTT労働組合東海総支部

フィリピン・カタンドゥアネスワークキャンプ (フィリピン)

期 間:2011年1月13日～1月18日

場 所:カタンドゥアネス島ピラク町パルタ・スモール村

参加者:24名

内 容:井戸・パイプライン建設、プロジェクト視察、交流

12. 第9回パナソニック半導体労働組合 カンボジア・ワークキャンプ (カンボジア)

期 間:2011年1月22日～1月27日

場 所:タケオ州トリアン郡ロネアム地区サモール・クロン村

参加者:13名

内 容:井戸建設、プロジェクト視察、交流

13. 第7回パナソニックエレクトロニクスデバイス労働組合 バングラデシュ・ワークキャンプ (バングラデシュ)

期 間:2011年2月5日～2月12日

場 所:ムンシガンジ県ディギルパール地区ダンコラ村

参加者:18名

内 容:井戸建設、プロジェクト視察、交流

14. 第3回(株)パスコ カンボジア・ワークキャンプ (カンボジア)

期 間:2011年2月21日～2月26日

場 所:タケオ州トリアン郡ケバブ地区タマダ村

参加者:4名

内 容:井戸建設、プロジェクト視察、交流

15. 第5回フィリピン・パロンバナネス島国際ワークキャンプ (フィリピン)

期 間:2011年3月3日～3月9日

Ⅰ．開発支援事業

場 所:カタンドゥアネス島カラムラン町トイトイ村パロンバナネス島
参加者:11名
内 容:植林、環境セミナー、交流

２．海外プロジェクト視察

1. フィリピン

期 間:2010年4月13日～4月15日
場 所:ヌエバエシハ州カピアオ町、マニラ市、リサール州ビナゴナン町、カルドナ町
視察者:松井聡子
内 容:井戸視察、災害復興支援プロジェクトの視察

2. インド

期 間:2010年5月3日～5月9日
場 所:カルナータカ州ビジャプール地区
視察者:村上公彦
内 容:クンパール氏お見舞い、コスモニケタン学園の状況調査

3. インド

期 間:2010年5月19日～8月14日
場 所:カルナータカ州ビジャプール地区
視察者:富松英二
内 容:過去建設井戸調査、コスモニケタン学園の現状調査

4. フィリピン

期 間:2010年5月25日～5月27日
場 所:マニラ市、リサール州ビナゴナン町、カルドナ町
視察者:村上公彦、松井聡子
内 容:災害復興支援プロジェクトの完成式、視察

5. ネパール

期 間:2010年6月23日～7月1日
場 所:バグマティ県カブレ郡、カトマンズ郡
視察者:熱田典子
内 容:バイオガスプラント・井戸・アジア里親の会支援校との打ち合わせ

6. インド

期 間:2010年7月22日～7月31日
場 所:カルナータカ州ビジャプール地区
視察者:畑中義雄、横山浩平
内 容:職業訓練学校建設視察及びハイブリッド発電修繕

7. ネパール

期 間:2010年8月5日～8月16日
場 所:ルンビニ県ノールバラシ郡、バグマティ県バクタプール郡、バグマティ県カトマンズ郡
視察者:熱田典子
内 容:植林及び環境保全のセミナー、牛の銀行の受け渡し式、バイオガスプロジェクト視察、井戸、アジア里親の会支援校との打ち合わせ

8. インド・インドネシア・タイ

期 間:2010年8月23日～9月1日
場 所:インド マハラシュトラ州プーネ、ナグプール
インドネシア バリ島
タイ バンコック
視察者:村上公彦、松井聡子
内 容:新提携団体(Green Scout India)組織、フレンドシップ基金について会議、

9. ネパール

期 間:2010年9月20日～9月31日
場 所:バグマティ県バクタプール郡、バグマティ県カトマンズ郡
視察者:熱田典子
内 容:バイオガスプロジェクト視察、環境セミナー、アジア里親の会支援校との打ち合わせ等

10. フィリピン

期 間:2010年9月29日～10月1日
場 所:ミンダナオ島ダバオ・オリエンタル市、マニラ市
視察者:松井聡子
内 容:農業トレーニングセンタープロジェクト視察、災害復興支援の会議

11. タイ

期 間:2010年11月8日～11月11日
場 所:バンコク
視察者:村上公彦
内 容:AFS ネットワークミーティング

12. ネパール

期 間:2010年11月8日～11月19日
場 所:ルンビニ県ノールバラシ郡、バグマティ県バクタプール郡、バグマティ県カトマンズ郡
視察者:熱田典子
内 容:バイオガスプラント視察、小学校図書室開所式、井戸視察、アジア里親の会支援校との打ち合わせ

13. インド

期 間:2010年11月13日～11月20日
場 所:カルナータカ州ビジャプール地区
視察者:田中壽美子、桑田隆弘、平原榮子
内 容:ドンボスコ開村式参加、コスモニケタン視察

14. ネパール

期 間:2010年12月23日～2011年1月6日
場 所:ルンビニ県ノールバラシ郡、バグマティ県バクタプール郡、バグマティ県カトマンズ地区
視察者:熱田典子
内 容:バイオガスプロジェクト視察、普及及び環境に関するセミナー、アジア里親の会支援校と打ち合わせ、学校支援

15. バングラデシュ・タイ

期 間:2011年2月5日～2月18日
場 所:ダッカ、
参加者:村上公彦、他3名

I. 開発支援事業

内 容:プロジェクト視察

16. タイ

期 間:2011 年 2 月 12 日～2 月 18 日

場 所:バンコク

視察者:村上公彦、古賀旭理事、他 2 名

内 容:AFS フレンドシップ基金会議

17. バングラデシュ

期 間:2011 年 2 月 26 日～3 月 10 日

場 所:ボリシャル県

視察者:南出和余

内 容:砒素汚染対策における栄養指導、調査

18. インド

期 間:2011 年 3 月 9 日～3 月 16 日

場 所:カルナータカ州ビジャプール地区

視察者:村上公彦

内 容:インド BSVIA のプロジェクト調整

19. 中国

期 間:2011 年 3 月 19 日～3 月 22 日

場 所:上海

視察者:村上公彦

内 容:上海アジアフォーラム出席

20. インド

期 間:2010 年 11 月 17 日～3 月 14 日

場 所:アラハバード、グジャラート、南カンナダ、他

視察者:横山浩平

内 容:マイクロファイナンスの研修

※2010 年度外務省長期スタディプログラム助成事業



フィリピン・カタンドゥアネス島におけるワークキャンプ
NTT 労組東海道支部ワークキャンプ



ネパールにおける学校図書館建設ワークキャンプ



カンボジアにて井戸建設ワークキャンプ
(第2回オムロン労組カンボジアワークキャンプ)



インド・外務省長期スタディプログラムにて
(女性の相互扶助グループとの会合)

II. 国際交流事業

II-A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支援。本年度は、該当の奨学生が無く、第21回アジア国際ネットワークセミナーの補助を行なった。以下、その他の活動報告

- ① 役員会: 1月26日
- ② フレンドシップサロン: 4/5、6/7、7/5、9/7、11/6、1/29

2. 海外ボランティア研修

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成をおこなう制度として2000年度より実施。

2010年度は、応募者がなく未実施。

海外訪問者記録

- | | |
|--------|---------------------------------|
| 5月18日 | インド提携団体 SSH 代表 |
| ～5月23日 | ブリトー・セワラジ 氏来日
社員総会にてプロジェクト報告 |
| 5月21日 | 中国関係団体 黒龍譚 |
| ～5月31日 | 王氏及びご家族来日
黒龍譚報告及び交流会 |
| 10月8日 | インド提携団体 GS-India Bro. シン氏 |
| ～11月3日 | 来日新宮市にて研修及び交流 |
| 2011年 | |
| 2月15日 | パキスタン シェール・アハメド・ジャン氏 |
| ～4月17日 | バングラデシュ マスドゥール・ラーマン氏 |



パキスタンのシェール・アハメド・ジャン氏
地域活動にてパキスタンについて話しをしているところ



第21回アジア国際ネットワークセミナー
スリランカ・A.T アリヤラネ博士の基調講演



第21回アジア国際ネットワークセミナー
パネル・ディスカッション



第21回アジア国際ネットワークセミナー
分科会の様子

II. 国際交流事業

II-B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

民衆の生活向上、特に、最貧困層の人々の基本的生存条件の確立に努力しているアジア各地のNGOとの連携・交流を図るために毎年一回開催されているアジア国際ネットワークセミナー。

本年度は大阪及び奈良にて以下のとおり開催した。

【第21回アジア国際ネットワークセミナー】

- ◆開催期間: 2010年10月10日～10月14日
- ◆開催場所: パークホテル臨海・奈良市野外活動センター
- ◆基本テーマ: 「一つなるアジアを目指して、理解と協力と連帯の輪を広げよう」
今回テーマ: 「貧困からの脱却」
～アジアの草の根社会における相互扶助制度の確立と問題点について～
- ◆基調講演: 「自助・自立とは」
Indian Society for Social Action (ISSA)
会長 ジョン・ザカライヤ博士
- ◆分科会: ①AFS 共通基金について
②AFS 会員のケアについて
③AFS スタッフの年金について
④自立に向けたネットワークの役割について
⑤グリーン・スカウト育成について
⑥AFS ユース育成について
- ◆参加者: 252名(含海外よりの招聘者49名)
- ◆主催 アジア国際ネットワークセミナー実行委員会事務局
財団法人 大阪府大阪国際交流財団
財団法人 大阪国際交流センター
社団法人 アジア協会アジア友の会
- ◆協賛 株式会社 OSG コーポレーション

(2) AFS 国際会議

本会が国際協力、海外支援事業を有効に実施・推進していくために、各提携団体相互の理解と協力と連帯が必要かつ有効であるとの認識から必要に応じて実施。

特に、環境問題や貧困問題等に共通する基本的ないしは根源的問題について、相互の研究会や技術的レベルの情報交換やスタッフの交流、活動や交流のための共通基金の創設等、各種連携は不可欠である。本年度は以下の会議を実施した。

- 4月18日 国際グリーン・スカウト指導者養成会議(タイ、ラ
～4月24日 ンパーン市)
- 7月15日 AFS インド地区協議会(ガッチロリ地区)
～7月22日 ビジャプール、ナグプール、アコラ、アマラバティ、ガッチロ
リ、アヘリ、カタック及びコルコタ各支部参加
- 8月13日 カンボジア支部との交流・協議会(プノンペン市)
～8月16日

- 10月20日 アジアフレンドシップ基金第1回協議会
～10月23日 (バンコク、ノンタブリ市) タイ、カンボジア、フィリ
ピン、インド、パキスタン、及び日本

(2) アジアフレンドシップ基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金、“アジアフレンドシップ夢基金”は2010年度から内外で本格的に募金が始まった年となった。国内においては322件326,000円の募金が寄せられ、資金の活用は2011年度からの予定。

アジアフレンドシップ基金国際管理委員会が2011年2月12～15日バンコク・ノンタブリにおいて開かれ、基金管理運営規則と2011～12年度管理委員(10名)が選任された。新委員は以下の通り。(任期2年)

- 議長 Dr. J. ザカライヤ(インド)
- 副議長 Rev. エカ・サントサ(インドネシア)
- 副議長 Mr. ブラザー・シン(インド)
- 書記 Prof. ソラポーン・ブクデ(タイ)
- 会計 Dr. 古賀 旭(日本)
- 委員 Mr. ロンチョーン(カンボジア)
- “ Ms. ネリ・レクタ(フィリピン)
- “ Mr. C・H・ナディーム(パキスタン)
- “ Dr. S.L. ボタール(インド)

常任顧問 Rev. 村上公彦

(規約の中に、委員選出の基礎条件として委員一人当たり年間3,000米ドル以上の募金義務が課せられる規程が設けられた。)

(3) アジア・ユースサミット

地域や世界に貢献出来る青少年の人材を育てるために昨年度から実施された第一回アジア・ユースサミット。2011年8月の開催を目指して、第2回アジア・ユースサミット実行委員会を設立し、企画、準備及び広報を行った。

東日本大震災の際にはユースグループが率先し、街頭募金、チャリティコンサートなどを行い、被災者への支援金を集めた。

2. 国際体験交流(スタディーツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト見学やアジアの現状を実際に足を運び実感することを通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。本年度は3ヶ国に3回実施し、述べ20名が参加した。

1. 日印コスモニケタン学園入学式参加スタディーツアー(インド)

期 間: 2010年6月12日～6月20日
場 所: カルナータカ州ビジャプール地区
視察者: 4名

II. 国際交流事業

内 容: 日印コスモニケタン学園入学式参加、プロジェクト視察

2. ベトナム スタディーツアー (ベトナム)

期 間: 2010年10月28日～11月3日

場 所: ホーチミン、ベンチェ、フエ、ダナン、ビエンホア

参加者: 9名

内 容: フォンミー村の小学校建設等現地プロジェクト視察、文化体験、交流

3. ネパール スタディーツアー (ネパール)

期 間: 2010年11月8日～11月17日

場 所: カトマンズ、ピトゥリ村、ルンビニ、ポカラ、チュニケル村、カトマンズ

参加者: 7名

内 容: 里子訪問と教育現場の視察、子ども達との交流、スリーサ
ンティ小学校図書館開所式参加、世界遺産の見学



第21回アジア国際ネットワークセミナーにて
グループディスカッションの様子



ネパール・スタディーツアーにて 里子の訪問



ベトナム・スタディーツアーにて
現地の子どもたちとの交流



第21回アジア国際ネットワークセミナーにて



グリーン・スカウト・インディア発足式及び
AFS インド地区協議

III. 生活支援事業

III-A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

パキスタン

◆PAFS パキスタン北部水害のための復興支援事業

【北西辺境州マルダン県】

事業期間：2010年9月～12月

2010年9月に発生した大降雨による洪水により多くの家屋が流され甚大な被害をもたらした。この被災状況を現地にて調査を行い、以下の支援を行った。

1. シェルター及びモスクの建設(6棟)
2. 衣料配布(300世帯)
3. クリケットーナメント開催による被災者の精神的ケア

日本

◆JAFS 東日本大震災緊急支援事業

【宮城県南三陸町歌津地区】

2011年3月11日マグニチュード9.0の大地震が東日本の太平洋沖を襲い、それにより発生した大津波が太平洋沖の東日本に甚大な被害をもたらした。本会は、被災者救援のために初動調査及び炊き出し、生活物資の配布を行った。本事業に於いては現在も継続して行っている。

事業期間：2011年3月19日～27日

事業内容：被災地の状況調査

炊き出し

生活物資配布

受益者数：約400名(内避難所の被災者40名)

事業拠点を南三陸町の隣町宮城県登米市に構え、宮城県登米市社会福祉協議会の協力を得て、南三陸町歌津地区の避難所(港親義会館)を中心に炊き出し、生活物資の配布を実施した。

※特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム助成事業



水害復興支援により建設されたシェルター



被災者への炊き出しを行っているところ
宮城県南三陸町歌津地区



炊き出しの時に被災者のニーズの聞き出しを行っている
宮城県南三陸町歌津地区

IV. 普及啓発事業

IV-A. 啓発教育

1. 本部活動

(1) チャリティープログラム

◆JAFS チャリティバザール◆

毎年2回、恒例になっている春と秋のJAFSチャリティバザールをJR住道駅前北側のデッキ広場で開催した。

大東市の市報を通じた広報で例年より出店者が増えた。また屋外イベントでもテント内をうまく使って活動紹介ブース(展示コーナー)を設けることで、来場者への活動理解を促す機会ができた。今後は、さらに多くの会員や地元の方が様々な形で関わり、参加できるバザールにしていく。

<春のバザール>

日時:2010年4月29日(祝)10:00~16:00

出店数:37店 (55ブース)

<秋のバザール>

日時:2010年10月24日(日)10:00~16:00

出店数:32店 (36ブース)

◆泉大津フェニックス野外コンサート 飲食ブース出店◆

8月28日 GREENS SPECIAL

8月29日 RUSH BALL 2010

9月4日 OTODAMA 10

会場:泉大津フェニックス

主催:泉大津フェニックス夏フェス10実行委員会事務局

(2) 国際理解教育講座

2002年度4月よりスタートした「総合的な学習の時間—国際理解—」。NGOが教育の場に入り、学校と相互理解・協力をはかりながら未来の人材を育てていく。今年度もNGOの役割や国際協力、環境保全の大切さを子どもたちに教室で直接伝えるべく、様々な国際理解教育活動を展開してきた。学校にとっては本会の国際理解教育講座が毎年の恒例化となりつつある。それぞれの市内に国際理解、関心が広がり、町ぐるみでの取り組みができることを期待する。

子どもたち個々の魅力が社会で活かせること(社会参加=国際協力参加)へのきっかけづくりになることを目指す。

NGO講師派遣

【のべ32校、2,626名】

4月20日	大精協看護専門学校文化人類学特別授業 アジアにおけるNGO活動(40名)
4月27日	大精協看護専門学校文化人類学特別授業 アジアの現状 ウイグルの状況(40名)
5月19日	松原西小学校5年生、6年生 (44名) 「ボランティア活動から知るアジア・水事情」
5月27日	大精協看護専門学校文化人類学特別授業

	ネパールの状況と保健事情(40名)
5月31日	近畿大学 (15名) 「国際ボランティア事例研修、海外の現場より② ネパールにて農村開発支援はなぜ必要か」
6月14日	松原中央小学校4年生(118名) 「環境・<水>から世界を知ろう」
6月14日	寝屋川市立田井小学校 (35名) 「アジアの子どもの暮らしと環境」及び植林活動
6月16日	松原市立布忍小学校5年生 (70名) 「国際交流 世界とのつながり、」
6月16日	近畿大学 (10名) 「環境問題とボランティア活動 ~フィリピン編~」
6月21日	松原市立三宅小学校 (70名) 「世界の子どもの実情」
6月22日	寝屋川市立点野小学校 (36名) 「アジアの子どもの暮らしと環境」及び植林活動
7月14日	龍谷大学 (250名) 「スタディーツアーの紹介①」
10月10日	放送大学 (30名) 「フィリピンにおける井戸掘り活動」
10月22日	技術士会 (30名) 「アジアの生活と不思議」
10月25日	松原第二中学校1年生(40名) 「ボランティア活動から知る世界&水事情」
10月26日	松原第二中学校1年生(40名) 「ボランティア活動から知る世界&水事情」
10月27日	松原第二中学校1年生(40名) 「ボランティア活動から知る世界&水事情」]
10月29日	神戸学院大学 (13名) 「バングラデシュの水事情とその対策」
11月4日	大阪府立富田林高等学校 (39名) 「アジアの子どもの暮らしと水」
11月5日	大阪経済大学 (35名) 「JAFSのアジアにおける活動とその展望をネパールの活動よりみる」
11月8日	松原市立第二中学校1年生(40名) 「ボランティア活動から知る世界&水事情」
11月11日	龍谷大学 (250名) 「スタディーツアーの紹介②」
11月11日	松原市立恵我南小学校4年 (44名) 「環境・<水>から世界を知ろう」
11月26日	近畿大学 (10名) 「国際ボランティア事例研修、海外の現場より ネパールにて農村開発支援はなぜ必要か」

IV. 普及啓発事業

12月3日	松原市立第二中学校1年生(24名) 国際交流コース 講師派遣ハイメロペス氏
12月10日	近畿大学(10名) 「国際ボランティア事例研修、海外の現場より④ フィリピンにおける地域開発について」
2011年	
2月3日	堺市立桃山台小学校(38名) 「アジアの子どもたちの生活と水」
2月9日	松原市立天美北小学校4年生(60名) 「環境・く水>をとおして世界を知ろう」
2月15日	堺市立大仙西小学校(32名) 「アジアの子どもたちの生活と水」
2月17日	堺市立深井西小学校(78名) 「地球に生きる一員として～森林とわたしたち」
2月23日	西宮市立甲陵中学校(800名) 「井戸贈呈とフィリピンの水事情」
3月9日	松原市立松原中学校1年生(205名) 「ボランティア活動から知る～世界の子ども」

授業受け入れ 【のべ1校17名】

6月22日	大阪府立松原高校(17名) 「生命の水とアジアのこどもたち」
-------	-----------------------------------

セミナー他 【2回181名】

7月31日	国際理解教育指導者セミナー(教職員自主研修支援) (31名) 内容:ワークショップ「環境について」 於:JICA 大阪センター
12月5日	関西学院大学 社会起業フォーラム(150名) 内容:フィリピンの社会的課題 於:アクタ西宮

大学生インターンシップ及び実習受入 【3校14名】

◆甲南女子大学(3名)
「文学部多文化コミュニケーション学科インターンシップ・ボランティア体験演習Ⅲ・Ⅳ」

6月～2月の間で、60時間以上の実習を行った。本会の国内活動の柱である『ぞうすいの会』を実習を通して理解および自身での企画実施に向けて計画立案などを行った。校外での実施を目標としたが様々な事情で実施に至らなかったが大学構内での実施を実行し、実習を終了した。

6月1日インターン生演習説明会

2月3日 ぞうすいの会実施(甲南女子大構内にて)

「文学部多文化コミュニケーション学科行動演習」

2日間のプログラム実習を通して、実習者がその内容に対してどのような行動をとることが必要であるかを自ら考え、そのプログラムに益になる行動を行う実習プログラム

①新春街頭募金(家原寺)に1名

②ワン・ワールドフェスティバルに2名が実習をおこなった。

◆神戸学院大学(5名)

「総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科 フィール

ドワーク実習」

8月20日～12月20日の間で3名×20日(140時間)、2名×10日(70時間)の実習をおこなった。事務所での事務作業の補佐及びネットワークセミナー、チャリティーイベント、地区活動においての実習をおこなった

8月6日 実習オリエンテーション

8月20日～12月20日 実習期間

2月5日 実習受入機関意見交換会

◆大阪経済大学(6名)

「経済学部地域活性化支援センター「国際支援とボランティア」ボランティア実習」

11月～12月の間で1名あたり24時間以上の実習を行い、国際ボランティア団体の活動を理解する実習。

JAFS事務局での事務補佐及び実習期間1回は地域での活動にも参加し、市民による国際協力団体の国内外における活動を実施。

11月5日 実習オリエンテーション

1月21日「国際支援とボランティア」報告会

【(3)インド文化センター講座】

インド文化センターはインドの文化、思想の紹介を図り、日印間の相互理解と文化交流を促進し、インド文化愛好者相互の親睦を目的として1987年設立され、137回の例会が行われたが、2003年に閉会した。2005年本会の国際理解・文化事業の一環としてJAFSインド文化センターが新しく発足。インドの歴史、宗教思想、文化の多様性と奥行きを日本の方に楽しく親しく広く学べる場として、宗教、思想や芸術にくわえ、古代の占い、暦、天文学、数学、医学を取り上げている。2010年度は第7期の連続講座を予定していたが、講師等の都合が合わず延期することとなった。

【(4)アジア文化理解講座】

国際協力を一般の人が身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

◆アジア家庭料理教室◆

2010年度はアジア13地域22回のアジア家庭料理教室を行い、延べ432名の参加を得た。

会 場:クレオ大阪西 調理室

4月15日、22日	フィリピン 参加者30名 講師:ピーナ ジードル氏
5月20日、27日	沖縄 参加者32名 講師:運天 優子氏
6月17日、24日	ネパール 参加者38名 講師:ニルマラ タカリ氏
7月6日	コロンビア 参加者21名 講師:オスカル
7月15日、22日	イラン 参加者43名 講師:ナスタラン スミ氏
8月1日	中国新疆ウイグル自治区 参加者28名 講師:ジャミラ ウライム氏

IV. 普及啓発事業

9月9日、16日	ベトナム 参加者 38 名 講師:レ ファイ ヴァン 氏
10月21日	タイ 参加者 25 名 講師:水野 ブンルアン 氏
11月11日、18日	インドネシア 参加者 36 名 講師:シャフウィナ 氏
12月2日、16日	内モンゴル自治区 参加者 37 名 講師:劉偉 氏
1月13日、27日	中国 香港 参加者 31 名 講師:謝 慧敏 氏
2月10日、17日	韓国 参加者 45 名 講師:孫 君子 氏
3月23日	インド 参加者 28 名 講師:ナゼマ トラバリ 氏

(5) 会員大会

JAFS 設立 30 周年を機に始められた JAFS 会員大会。今年度は第 3 回を開催。第 1 部では 2010 年に様々な分野で顕著な活動をした個人・グループへの感謝状贈呈、第 2 部では会員有志によるアトラクションを楽しみながら懇親会を行った。年 1 回の会員大集合の場として、参加者同士が交流し、お互いの活動を知ることができた。

2月19日 第3回 JAFS 会員大会
於:パークホテル臨海
参加者:105 名

(6) 国際協力ボランティア講座

◆JAFS 例会◆

海外プロジェクトを中心とした最新の JAFS 活動を会員および市民に紹介する機会を設け、会員拡大につなげるという目的で 2008 年 10 月より開始、シリーズ企画として実施している。特に学生・社会人の参加をねらい、時間や雰囲気を設定、学校・会社帰りに気軽に参加できるように企画。

2010 年度前期は『貧困のサイクルからぬけだすために』、後期は『なぜ今、生命の水なのか』というテーマで行い、延べ 142 名の参加を得た。

前期

4月13日	「コスモニケタン学園レポート2009 貧しくとも勉強したい子どもたちがいる」 報告者:富松英二 参加者:23 名
5月11日	「ドンボスコアチャラム ストリートチルドレンの自立活動に取り組んで」 報告者:牧野由紀子 参加者:32 名
6月8日	「貧困の連鎖をたちきる コミュニティーデベロップメント」 報告者:熱田典子 参加者:10 名
7月13日	「カンボジアにおける地域開発事業 ～マイクロクレジットを通じて～」

報告者:横山浩平
参加者:13 名

9月14日	「HIV こども支援 一日一食で病氣と闘う子ども達のために」 報告者:横山浩平 参加者:16 名
後期	
12月14日	「生命の水、贈り続けて30年」 報告者:富松英二 参加者:12 名
1月11日	「水道プロジェクト 知られざるその後、自立を求めて ～フィリピン事例から～」 報告者:松井聡子 参加者:13 名
2月8日	「生命の水が失われた時 ～緊急支援の事例から～」 報告者:永井博記、藤原建男 参加者:12 名
3月8日	「生命の水を贈る活動を通して広がる アジア市民の輪」 報告者:村上公彦 参加者:11 名

(7) その他各種教養講座・研修プログラム

◆ワン・ワールドフェスティバル 2010◆

1993 年より毎年大阪で開催、今年 18 回目を迎えた。関西の NGO、NPO、国際機関、企業などが参加し、国際協力活動を幅広く紹介するとともに、参加者が地球規模の課題に対して行動するきっかけの場となることを目的としている。本会は実行委員会の一員として、活動紹介展示、民族料理屋台、企画プログラムにて参加協力した。

期 間:2011 年 2 月 5 日(土)、6 日(日)
場 所:大阪国際交流センター
来場者:17,500 名(2 日間延べ人数)
主 催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会
内 容:

①NGO 活動紹介ブース

来場者を対象に活動紹介とワークキャンプ参加者、ボランティア募集の告知とアジアグッズの販売を行った。

②民族料理模擬店出店

JAFS ファミリーグループ(スリランカ・サルボダヤ支援会、Paon)が協力し、アジアの料理(カンボジア風雑炊、チャイ、ゴーダンパロティ、アジア風から揚げ)を販売した。収益をアジアへの支援金にあてるとともに、食を通してアジアの理解を深めた。

IV. 普及啓発事業

2. 地区活動

30 周年事業を機に地域活動の活性化を図る事を目的にそれぞれ目標を定め地域活動を推進していくために「ぞうすいの会実行委員会」「植林実行委員会」「ウォーカソン実行委員会」という実行委員会中心とした体制で地域活動を展開した。

本会の活動、理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し、多岐にわたり地域活動が行われてきた。中には活動 15 周年を迎える活動もあり、益々の広がりを見せている。

- 第 1 エリア：大阪府北部、兵庫県東部
- 第 2 エリア：大阪府東部
- 第 3 エリア：大阪市内
- 第 4 エリア：大阪府東南部
- 第 5 エリア：京都府、滋賀県
- 第 6 エリア：武庫川以西の兵庫県
- 第 7 エリア：奈良県、東大阪、八尾
- 第 8 エリア：大阪府西南部
- 第 9 エリア：和歌山県、西日本
- 第 10 エリア：東日本

(1) エリア世話人会・全体地区世話人会

◆エリア世話人会◆ 計 12 回実施 16 名
定例会：毎月第 3 火曜日
各地区世話人の内より、エリア毎に委任されたエリア世話人(各エリア 3 名程度)で構成、エリア内の各地区世話人との情報交流、連絡調整を計り、事務局と地区のパイプ役をつとめる。また、地域活動における事務局事務(主として連絡、広報)を補佐を行なう。

◆全体地区世話人会◆ 年 2 回
前期
日 程：6 月 27 日(日)16:00～20:00
場 所：山下ビル 4F
テーマ：全員集合！！いきいきボランティア
～地区じまん 会員じまん～
参加者：37 名
実行委員：第 1、2、3 エリア地区世話人

後期
日 程：11 月 12 日(金)～11 月 13 日(土)
場 所：大阪国際ユースホテル
カトリック浜寺教会
テーマ：夢を語ろう！～豊かな自己発見のために～
参加者：23 名
実行委員：第 4、8 エリア地区世話人

(2) 地区世話人一覧

※印 エリア世話人を兼任

エリア	地区	氏名
第 1 エリア	尼崎	天野澄子※、黒谷侑子、富松英二
	池田	石原基義
	茨木	船本幸二
	川西	粕谷 早苗
	吹田	橋本喜代子
	高槻	島貫清司、内藤肇、西川龍夫、三阪パニダー
	豊中	川良幸子、富田修、豊田祥二
	箕面	平瀬勢丈、平手清、三雲孝
第 2 エリア	門真	友松千草
	四條畷	小浜喜代子、小柳二郎
	大東	東村小夜子
	寝屋川	笠谷正博※、根津千枝子、畠山ひろみ、船曳正之、松山博子
	枚方	明見睦子、天野由紀代※、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子
	守口	大野賢信、真田朱美、二野英子
第 3 エリア	大阪市	有馬純夫、齋藤かおる、塩尻昭枝、寺岡源司※、中島三栄子、福岡好嗣、
第 4 エリア	河内長野	今井利子※、白井春夫
	富田林	東野ゆかり
	藤井寺	森わか子
	松原	橋本末子※、六車勝三
	美原	田中千鶴子※、中嶋啓子
第 5 エリア	宇治	柿木良昭※、杉林則子、田中紀代三※、桜屋敷寛子
	亀岡	亀谷真佐美
	京都市	菅 洋子、宮本照佳※
	野洲郡	深田陽一
	八幡	黒木隼彦、福川 肅
第 6 エリア	芦屋	井上登志子、白神博子※
	神戸	福井初美
	三田	堀 正之
	西宮	大木洋子、岡田 昂※、木崎義純、斎藤英美子、畠中美代子、平山隆史
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、松本茂宏、森 梢
第 7 エリア	生駒	青木美千代、落合能里子、奈蔵千代、山田いづみ※
	奈良	高以良泰治、野口明英
	東大阪	岡田 一、坂上やよひ※、南野紀美子
	大和郡山	古田由紀
第 8 エリア	和泉	出原とよ、内野清子、中居順三
	泉大津	草加節男
	堺	幾谷真嬉子、久保幸子、小出裕司※

IV. 普及啓発事業

第9エリア	新宮	奥田 勲、瀧野秀二、瀧野三重子、中西 洋
	田辺	小森茂之
	広島	宇田和博
	和歌山	長江佐和
第10エリア	静岡	富坂保雄
	多摩	広住道夫
	東京	市来伴子、高岸泰子
	名古屋	清水三千夫、壁谷桂子
	沼津	佐野令二

(2011年3月31日現在/計102名)

(3)第1エリア

【尼崎】(天野澄子、黒谷佑子、富松英二、石原基義、粕谷早苗、橋本喜代子、島貫清司、内藤肇、西川龍夫、三阪パニダー、川良幸子、富田修、豊田祥二、平瀬勢丈、平手清、三雲孝)

- 5月5日 中山寺子どもフェスティバル参加
アジア子ども絵画展示、綿菓子等販売
於:大本山 中山寺
- 7月16日 第1エリア世話人懇親会
於:姫路・自然楽舎
- 10月1日 JAFS 瀬田敦子チャリティコンサート
会場:みつなかホール
- 2011年 第1エリア新年会
1月15日 於:川西能勢口教会
- ※ そのほか、7/14、9/14、10/26に第1エリア例会を実施

(4)第2エリア

【第2エリア合同】

第2エリアではJAFS30周年を機に植林活動を継続してエリアで実施しようと、実行委員会「北河内緑とふれあう会」を立ち上げ進めている。また、意思統一の為に話し合いや新年会などをおこない、雰囲気向上を図った。

- 1月23日 第2エリア理事・世話人新年会
於:がんこ枚方店

<植林実行委員会「JAFS 北河内 緑とふれあう会」>

- 6月12日 “御殿山神社に山桜を咲かせよう”【山桜2本】
- 6月14日 田井小学校で紫陽花植樹【紫陽花9本】
- 6月19日 農園作業(植替えと起耕)
- 6月22日 点野小学校で紫陽花植樹【紫陽花44本】
- 6月22日 農園作業(サツマイモ、ドングリの苗植栽)
- 6月 農園作業(紫陽花の苗、カボチャの植付け)
- 7月19日 農園作業(水槽設置)
- 7月24日 農園作業(畝作りと起耕)
- 8月8日 農園作業(畝作り)
- 9月11日 農園作業(畝作り)
- 10月3日 農園作業(大根・キャベツの播種)
- 10月16日 “市民の手で御殿山神社を紫陽花で彩ろう!”【紫陽花35本】
- 10月17日 ひらかたNPOフェスタ模擬店参加

- 10月30日 “芋ほり&収穫祭”(芋ほり、親睦会)
- 11月15日 御殿山神社追加植樹【紫陽花21本】
- 11月20日 ひらかた多文化フェスティバル模擬店参加
- 11月21日 農園作業(残りの芋ほり)
- 12月4日 寝屋川多文化フェスティバル模擬店参加
- 12月18日 農園作業(玉葱の植付、大根・蕪の収穫)
- 1月 垣根作り
- 1月22日 農園作業(畝作り、垣根作り)
- 2月26日 農園作業(大根・蕪の収穫、ジャガイモの植付)、午後～親睦会

- 3月19日 農園作業(育苗所、ハーブ園の整備)、午後～総会
- ※7～9月の間、週1～2回当番制の水やりをおこなった。

定例作業日以外の有志の作業が多々あり。

※ブログを立ち上げ広報及び活動状況報告を広く知らせた

<http://blog.goo.ne.jp/midori-hureai/e/f44a89b4c3725b8971be5efb7902b179>

【守口】(大野賢信、真田朱美、二野英子)

- 4月3日 さくら祭り出店
- 4月7日 例会
- 4月18日 橋波商店街フリーマーケット
- 4月29日 JAFS 本部住道バザー出店
- 5月12日 例会
- 5月16日 橋波フリーマーケット
- 5月21日 JAFS 守口焼き鳥パーティ
- 5月20日 橋波フリーマーケット
- 5月22日 JAFS 社員総会
- 6月2日 例会
- 7月4日 セタまつり
- 7月7日 例会
- 7月31日 橋波商店街夜店出店
- 8月4日 例会
- 9月6日 例会
- 9月20日 橋波フリーマーケット
- 9月25日 橋波商店街100円市
- 10月3日 市民祭り準備
- 10月6日 例会
- 10月10日 例会
- 10月11日 橋波フリーマーケット
- 10月16日 JAHS 守口会員親睦会(一泊二日)琵琶湖～10月17日
- 10月24日 JAFS 本部住道バザー
- 10月28日 市民祭り準備
- ～10月29日
- 10月30日 事務所前ガレージセール
- 11月7日 市民祭り出店
- 11月21日 国際交流協会フェスティバル出店
- 11月28日 橋波フリーマーケット
- 12月1日 例会
- 12月23日 橋波フリーマーケット
- 12月26日 事務所納会・掃除
- 2011年
- 1月8日 事務所開き

IV. 普及啓発事業

1月9日 事務所前「餅つき大会」
 1月16日 橋波商店街新年会 JAFS 出席
 1月23日 橋波フリーマーケット
 1月28日 土居商店街出店
 1月29日 橋波商店街100円市出店
 2月2日 例会
 ガレージセール
 2月18日 土居商店街出店
 2月19日 JAFS 本部会員大会参加
 2月20日 橋波商店街フリーマーケット
 3月2日 例会
 3月4日 桜まつり実行委員会
 3月19日 JAFS 守口事務所引越し
 ～3月21日
 3月27日 桜まつり準備

【四條畷】(小柳二郎 小浜喜代子)

四條畷市国際交流推進市民会議の委員として定期的に委員会に参加し、四條畷市国際化施策に携わる活動に参加。

8/25、9/15、10/27、11/17、12/15、1/26、2/15、3/16 に市役所にて会議が実施された。3 月にはこれまでのまとめを行い、四條畷市の国際交流推進策がまとめられた。四條畷地区としてもこの会議を受け、来年度、この委員参加の経験を生かし、国際交流プログラムを企画予定。

【枚方】(吉田幸子、天野由紀代、船戸康夫、虫明慧悟、明見睦子、佐々木実)

6月6日 第23回ぞうすいの会「ミャンマーを訪ねて」
 話：佐々木 実氏
 於：津田生涯学習市民センター
 参加者 22 名
 8月28日 ひらかた祭り参加(ネパ橋)
 於：岡東中央公園
 9月17日 第6回ティーサロン「一日一食でHIVと闘う子ども達」
 話：横山 浩平氏
 於：全労済大阪本部共済ショップ枚方
 参加者11名
 10月17日 ひらかた NPO フェスタ 2010 模擬店参加
 於：岡東中央公園
 11月20日 ひらかた多文化フェスティバル 2010 模擬店参加
 於：岡東中央公園
 11月27日 枚方・寝屋川合同ウォーカーソン
 「やすらぎと自然に出会うウォーカーソン」
 場所：樟葉丘陵から石清水八幡宮へ
 参加者：18名
 1月23日 第2エリア新年会
 於：がんこ枚方店
 3月6日 第24回ぞうすいの会「タイのお正月のお話」
 話：三阪 パニダーさん
 於：楠葉生涯学習市民センター
 参加者20名
 ※地区世話人会 6/4、9/17、1/23 出席

【寝屋川】(笠谷正博、畠山ひろみ、船曳正之、根津千枝子、松山博子)

4月1日～5日 アジア子ども絵画展
 於：香里ふれあいプラザ
 4月22日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 5月27日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 6月20日 第38回寝屋川ぞうすいの会
 「寝屋川市の放置自転車アジアの国で」
 於：秦公民館
 話：橋本 隆さん
 6月28日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 7月29日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 9月2日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 10月7日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 11月4日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 11月6日 市民活動センターふれあいまつり
 活動パネル展示 於：市民活動センター
 11月23日 ふらっとねやがわまつり
 活動パネル展示 於：ふらっとねやがわ
 11月27日 枚方・寝屋川地区合同ウォーカーソン
 於：鏡伝池～継体天皇樟葉宮跡伝承地～石清水八幡宮
 12月2日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 12月4日 第3回みんなおいでよねやがわ多文化フェスタ
 実行委員・ステージ・模擬店・物産展・パネル展示参加
 於：市立北小学校
 1月23日 第2エリア新年会 於：がんこ枚方店
 2月1日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 2月13日 第39回寝屋川ぞうすいの会 於：秦公民館
 「2010夏 ネパールから学んだこと」
 報告：笠谷正博
 3月1日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
 ※今年度は、以上の活動によりネパールにバイオガス プラント2基を寄贈することができた。

(5)第3エリア

【大阪市】(有馬純夫、斉藤かおる、塩尻昭枝、寺岡源司、中島三栄子、平原榮子、福岡好嗣)

5月26日 ゴーヤ「みどりのカーテン作り」ワークショップ
 8月24日～ JAFS 活動紹介パネル展示
 27日 アジア子ども絵画展
 ぞうすいの会開催
 場所：A'ワーク創造館(浪速区)
 10月22日 JAFS 瀬田敦子チャリティコンサート
 場所：川口基督教会
 11月30日 大阪ぞうすいの会
 「希望の種“井戸”からはじまる海外支援」
 お話し：富松英二
 場所：弘治文化会館(西成区)

<定例会>

毎月第3木曜日にアジア協会事務局にて定例会合を開催(合計12回)。

IV. 普及啓発事業

【(6)第4エリア

【河内長野】(今井利子)

1)河内長野クリーン up 作戦

実施日:偶数月/第4火曜日/午前7:00から

場 所: 河内長野駅前の歩道と植込みの清掃

2)河内長野市ボランティアフェスティバルへ出店参加

開催日:2011年2月27日(日)10:00～

場 所: 河内長野市立市民公益活動支援センター

“ボランティアフェスティバル”では、アジア子ども絵画の展示、アジア各国の事情をPR、グッズの販売を行い、売り上げの協力が得られた。

3)JAFS 瀬田敦子チャリティコンサート

開催日:10月11日(祝)14:00～

場 所: 堺市東文化会館

8 エリアの世話人さんと協力しながらチャリティコンサートの企画準備のための会合を3回開いた。

4)東日本大震災への支援街頭募金活動

実施日:2011年3月25日

場 所: る・ぶらざ

※そのほか、8 エリアと合同で堺東駅前にて街頭募金を行う

【松原】(橋本末子、森わか子)

JAFS 松原ブログ(田中愛子担当)は2009年3月に開設以来「松原ぞうすいの会」を軸に、JAFS 松原の活動報告を逐次掲載。

5月30日 第52回 JAFS 松原ぞうすいの会

ゲスト:畚野サンディアさん(スリランカ)

於:松原総合福祉会館

6月20日 松原ワールドフェスタ実行委員会

7月2日 松原ぞうすいの会ゲスト打合せ会議(スウェーデン)

7月17日 松原ボランティア連絡会 会議

8月28日 第53回 JAFS 松原ぞうすいの会

ゲスト:ペーター・モラー氏(スウェーデン)

於:松原総合福祉会館

9月26日 松原ワールドフェスタ実行委員会パーティ

10月11日 堺地区瀬田敦子さんチャリティコンサート協力

11月7日 2010 松原ワールドフェスタ

11月13日 松原第七中学校区国際文化フェスティバル

12月8日 松原ぞうすいの会ゲスト打合せ会議(内モンゴル)

12月18日 松原ボランティア連絡会 会議

2011年

1月4日 JAFS 松原地区スタッフ会議

1月13日 松原JC 新年互礼会 出席

1月23日 第54回 JAFS 松原ぞうすいの会

ゲスト:春蘭さん、劉偉氏(内モンゴル)

於:松原総合福祉会館 3階

2月19日 松原ボランティア連絡会 会議

2月19日 第3回 JAFS 会員大会出席

JAFS 松原ぞうすいの会最多開催・最多動員賞受賞

於:パークホテル臨海

3月12日 第55回 JAFS 松原ぞうすいの会

ゲスト:松井聡子さん(JAFS スタッフ)

於:松原三宅公民館

3月16日 松原東小学校 使用済 葉書寄附

(於卒業お祝いの会)

【美原】(中嶋啓子、田中千鶴子)

6月12日 地区懇親会および新入会員への説明会

11月6日 美原区民まつり準備

11月7日 美原区民まつり(旧美原おもろいデー)参加

JAFS 模擬店出店(収益を年末募金に)

11月28日 美原区民まつり反省会および懇親会

12月26日 地区懇親会および忘年会

1月16日 地区懇親会および新年会

【富田林】(沖田文明)

富田林地区会「ラリグラス」では、今年度も各地のバザー出店を中心に活動し、その収益金でネパールに小学校を建てています。いままでに三校建設し、四校目をめざして活動しています。主な原資はアルミ缶の収集販売、バザー収益金、寄付金などです。

平成21年から、堺市山之口商店街のギャラリー夢庵で毎月第4日曜日に手作り品販売、平成22年度からは毎月28日の滝谷不動尊縁日にリサイクルバザーを開催しています。

4月29日 JAFS チャリティーバザール(JR 住道駅前)出店

5月5日 堺・さつき祭り(山之口商店街)出店

6月6日 津々山公園「地域の輪祭り」参加と、バザー出店

10月11日 JAFS チャリティーバザール(JR 住道駅前)出店

10月17日 堺まつり(山之口商店街)出店

2010年4月～ 山之口商店街ギャラリー夢庵にて手作り品販売

2011年3月

2010年4月～ 毎月28日滝谷不動尊縁日にリサイクルバザーを

2011年3月 開催

【(7)第5エリア

【京都・宇治・野洲】(菅洋子、宮本照佳、柿木良昭、杉林則子、田中紀代三、 亀谷真佐美、黒木隼彦、福川康、深田陽一)

9月26日 宇治地区例会(アジアお茶まつり準備会)

於:宇治市生涯学習センター

10月15日 アジアお茶まつり協力申請

於:宇治市役所他

11月14日 第16回アジアお茶まつり

於:ユニチカユニオン宇治川会館

参加者:100名

1月15日 宇治新年会

於:ニューインディア

その他、宇治市ボランティア活動センターに所属し、活動に参加協力している。

【(8)第6エリア

IV. 普及啓発事業

【西宮】(岡田昂、大木洋子、木崎義純、斉藤芙美子、畠中美代子、平山隆史)

- 4月18日 スタッフ会合
5月23日のぞうすいの会準備ほか
於:西宮男女共同参画センター
- 4月29日 活動パネル展示とバザー出店
於:西宮中央教会 ふれあいマーケット
- 5月23日 ぞうすいの会〜コロンビア編〜
お話し:オスカルビネタ氏(コロンビア)
(35名) 於 西宮市中央公民館
- 8月4日 スタッフ会合(9月25日のぞうすいの会ゲストスピーカーと準備打ち合わせ)
於:西宮男女共同参画センター
- 9月4日 スタッフ会合(9月25日の準備)
於:西宮男女共同参画センター
- 9月25日 じゃふしあん 25号 発行
- 9月25日 ぞうすいの会〜カンボジア編〜(41名)
ゲストスピーカー: ケムワンソックさん
ぞうすい: ボーボーモアン
於:西宮市立中央公民館
- 10月31日 スタッフ打ち合わせ会
(Asian Party in 西宮 準備)
於:西宮男女共同参画センター
- 12月4日 Asian Party in 西宮(53名)
11ヶ国の参加者が腹話術の出し物やダンスで交流を楽しむ
於:西宮市立中央公民館
- 2月13日 西宮国際交流デーに参加
活動パネル展示、アジア民芸品販売
於:西宮市国際交流協会

【神戸・芦屋】(井上登志子、白神博子)

- 6月25日 JAFS 横山浩平講演会
於:岡本好文園小ホール(東灘区)
- 11月6日 「神戸グローバルチャリティフェスティバル」物販で参加
於:神戸松陰女子学院大学
- 2011年 新年会
- 1月9日 於:「點心茶室」中華料理店(中央区)
※3月26日「ぞうすいの会」予定を街頭募金活動に変更

【姫路】(森 梢、荒川鉄也、中尾和子、松本茂宏)

- 定例会:毎月第1木曜日 19:00〜
場所:イーグレ姫路 ボランティア活動室
- 6月12日 アジア料理〜ラオス〜(ぞうすいの会)
- 7月3日 はりま勉強会
播磨地域の行事・歴史を学ぶ会
- 10月24日 姫路オータムフェスティバル参加
於:大手前公園
- 11月6日 ウォーカソン
「加古川ノスタルジック散歩みち」
- 2月27日 姫路スプリングフェスティバル参加
於:イーグレ姫路

(9)第7エリア

【奈良・生駒・大和郡山】(青木美千代、一瀬由紀子、岩切康宏、落合能里子、金剛一智、高以良泰治、奈蔵千代、野口明英、福島朋子、古田由紀、矢野恵美子、山田いつみ、山田穂積、和田達生、渡邊瑠璃子)

- 4月9日 奈良地区4月例会(6名)
於:奈良市中部公民館
- 5月8日 奈良地区 教養講座(16名)
「インドの話を聞こう」 講師 富松英二氏
於:奈良市中部公民館
- 5月26日 「そら豆収穫ツアー&ミニぞうすいの会」
於:際本さんの畑(5名)
- 6月12日 奈良地区6月例会(6名)
於:奈良市中部公民館
- 7月17日 奈良地区7月例会(6名)
於:スリ兰卡料理店 ハンターナ
- 8月21日 「真夏の夜のウォーカソン」
第1部 講座「平城遷都はなぜおこなわれたか」
講師:県立橿原考古学研究所附属博物館主任学芸員 平松良雄先生
- 第2部 ウォーカソン
＜コース＞
朱雀門→光と明かりのフェア展示箇所など
平城宮跡→大極殿→交流広場
於:平城宮跡
- 9月10日 奈良地区9月例会(7名)
於:奈良市中部公民館
- 10月17日 JAFS チャリティコンサート2010
〜瀬田敦子チャリティコンサート10周年を記念して〜 於:学園前ホール
- 11月6日 「柿狩りウォーカソン」
於:鹿背山
- 11月6日 「ぞうすいの会」&奈良地区11月例会
於:鹿背山
- 12月3日 奈良地区12月例会
於:奈良市中部公民館(4名)
- 1月14日 奈良地区1月例会
於:居酒屋 亜耶(6名)
- 1月28日 「アジア屋台フェスティバル 前夜祭」
於:カトリック野外礼拝センター
- 1月29日 「アジア屋台フェスティバル」
インド、インドネシア、タイ、台湾、日本、中国内モンゴル自治区、中国新疆ウイグル自治区、フィリピン、ベトナム、ラオス、韓国
於:カトリック野外礼拝センター
- 2月11日 「竹送りウォーカソン&奈良地区2月例会」
於:京田辺市及び奈良市
- 3月5日 奈良地区3月例会
於:奈良市立中部公民館
- 【東大阪】(岡田一、坂上やよひ、南野紀美子)
- 5月9日 東大阪ふれあい祭り出店
於:近鉄大阪線河内小阪付近

IV. 普及啓発事業

- 9月5日 エスニック料理教室～タイの料理とお話し～
講師:水野ブソルアン
於:若江岩田 希来里
- 12月6日 井戸寄贈資金を JAFS 事務局へ持参
(スリランカへ1基)
- 上記のイベント以外に定例会を6/21、7/13、8/16、11/15、2/28に実施し、イベント計画、準備についての話し合いを行った。

(10)第8エリア

【和泉市・堺市・高石市・泉大津市】(出原とよ、内野清子、中居順三、幾谷真嬉子、久保幸子、小出裕司、佐藤満昭、草加節男)

- 4月4日 泉大津 さくら祭り&国際交流フェア参加
JAFS パネル展示、アジアグッズ販売
於:泉大津市民会館
- 5月5日 さつきまつり 於:山之口商店街(堺市)
- 7月19日 ギター・サマーコンサート
募金活動、物品販売にて協力
- 6月6日 和泉ワールドフェスティバル 参加
- 10月11日 JAFS チャリティコンサート
会場:堺市東文化会館メインホール
入場者:230人
- 10月17日 堺まつり 出店
於:山之口商店街(堺市)
- 11月20日 和泉ボランティアフェスティバル 参加
- 12月12日 第1回堺市国際交流フェスタ 参加
会場:堺市国際プラザ6階

(11)第9、10エリア

【東京】(岩田芳晴、高岸泰子、長谷川雅子、雨宮義人、川崎隆二)

- 7月16日 関東地区会
於:カンティプール(ネパールレストラン)
田中副事務局長より JAFS 活動全般の報告
- 9月2日 関東地区会 於:JICA 地球ひろば
秋の行事: 信州・小谷村ワークキャンプ 及び
グローバルフェスタの事前打ち合わせ。
- 9月18日 小谷村ワークキャンプ
～9月20日 於:信州 小谷村 協働学舎
塩の道ウォークソン(千石街道 4km)
参加者9名
- 10月2日 グローバルフェスタ JAPAN 2010
～10月3日 飲食ブース、展示ブースで参加
於:日比谷公園
- 10月30日 JAFS・瀬田敦子チャリティ コンサート
会場: 松濤サロン(渋谷)
来場者:70名
- 2011年 新春の集い 於:JICA 地球ひろば
1月21日 トエエモンさんよりラカインプロジェクト報告
参加者8名

【多摩】(広住道夫)

- 5月29日 昭和記念公園ウォークソン

初夏の花が咲き乱れる広大な公園をウォーク。
広住道夫画伯の指導で写生も楽しむ。
(13名)

- 中央大学福祉ゼミナール
- 6月18日 「よいボランティアになるために」 (45名)
・JAFS 活動紹介
於:中央大学(多摩市)
- 7月28日 第5回多摩キッズアート大会
・JAFS 活動紹介
於:多摩市関戸公民館 (35名)
- 8月20日～ ロビーギャラリー展
23日 ・JAFS 活動紹介
於:多摩市関戸健康館 (来場者180名)
- 10月9日 サタデースクール創作ぬりえ
・JAFS 活動紹介
於:八王子市松ヶ谷小学校 (32名)
- 2011年 「由木東市民センター祭」子どもぬり絵体験コ
2月13日 ーナー JAFS 活動紹介 (来場者380名)
於:由木東市民センター

3. 広報

(1)アジアネット

アジアネットは、アジア各地における本会活動の詳細を中心に掲載している。出来るだけ写真を多用し、現地での活動の鼓動がリアルに、伝わるように努めている。

また、発行に際しては総花的なニュースを避け、各号毎にテーマを設け、読者の皆様により詳細かつ身近なニュースを提供したいと考えている。

本会が活動するアジア地域で何が起き、何を必要としているかを伝える事が本誌の役割。例えば、南インドにおけるHIV(本誌102号6ページ)の報告は単に一国一地域の問題ではなく、人類の存続に係わる問題として掲載した。また、106号ではNGO活動の持続的活動のため、次世代を担うリーダーの育成が急務であるとして取り上げた。

《発行実績》 各号5,500部発行

- 105号 2010年8月
- 106号 2010年11月
- 107号 2011年2月

◆105号主要記事

- 特集 教育こそ国の力
- ・海外プロジェクト2010
 - ・教育こそ国の力
 - ・アジアのネットワーク
 - ・寄贈井戸報告
 - ・2010年度社員総会報告

◆106号主要記事

- 特集 リーダーの条件
- ・今、社会に求められる真のリーダーシップとは
A. T. アリヤラトネ博士講演より
 - ・リーダーの条件

IV. 普及啓発事業

パネルディスカッションより

- ・ 第21回アジア国際ネットワークセミナー報告
- ・ 支えあうネットワーク アジアフレンドシップ夢基金

◆107号主要記事

特集 日本人の国際貢献序曲

- ・ 未来の国際人にむけて 日本人の国際貢献序曲
- ・ ネパールの奥地にバイオガスの灯りが灯った
- ・ インド子ども村のその後
- ・ Community Development の真実
- ・ Water Smile Project アステアステ
- ・ アジアネットワーク通信
- ・ インド研修報告

(2) 会員プラザ

本会の活動は、多くの会員によって支えられている。会員が住む地域によってグループ(エリア)があり、地区世話人によって運営されている。また、地域を越え、同じ趣味や同じ目的で作る自主グループがある。国内の活動は、主にこの二つのグループとアジア協会によって行われる全国的な活動がある。

国内活動はウォークソンや料理教室、チャリティコンサートなど多岐にわたり活発な活動を行っているが、本誌はその紹介を目的としている。

《発行実績》 各号 2,500 部発行

- ・ 25号 2010年8月
- ・ 26号 2010年11月
- ・ 27号 2011年2月

(3) 社員通信

「社員通信」は、社団法人の社員について学んでいくと共に、JAFS社員会員の様々な活動を紹介し、相互のコミュニケーションを図ることを目的に発行している。

3号 2010年4月

4号 2010年7月

(4) 英文ニュース

AFSのネットワークに対して、フィリピン・カリピ財団が中心となり、環境問題、とくに気候変動に関するニュースをほぼ毎日発信した。今後とも益々JAFSや他のAFS団体の活動をみんなで見守っていききたい。

(5) ホームページ

本年度は新規ホームページを立ち上げ、新たにContents Management System＝CMS(ワード感覚で更新作業が出来るホームページ)を採用し、更新作業が円滑に行われるようになった。

今後も、松原地区や関東地区のブログ、グリーンスカウト大阪ブログ、グリーンスカウト吹田HP、JAFS 東大阪ぞうすいの会ホームページ、JAFS 北河内緑とふれあう会、JAFS フェイスブック(ファンページ)

などと連携しながら、さらに訪問者の増えるホームページ運用をめざしていく。

(6) メールマガジン

本年度は、4/3、6/20、8/28、9/17、10/17、12/10、12/28の合計7回の発行ができた。現在、登録読者数は577名。

メールマガジンの内容は、本会の海外支援プロジェクトの状況やアジア現地からの小話、また国内プログラム参加者の感想など一般の方に読みやすい内容を届けることができた。

2011年度は、本会ホームページへ誘導し活動への参加協力につながるような工夫も加えて、それを効果的に活用させていきたい。

登録読者数:577名、7回発行

(7) ブログ等

活動状況を広く発信するために、各活動グループでブログやホームページを独自で設け、本会ホームページとリンクをしている。

・JAFS 東大阪ぞうすいの会

<http://www.zousui.org/>

・松原ぞうすいの会(HPを開設 2009/3/25)

<http://blog.goo.ne.jp/jafsmatsubarazousuinokai>

・JAFS 関東地区(ブログを開設 2009年7月)

<http://jafskanto.blog61.fc2.com/>

・グリーンスカウト大阪

<http://green.ap.teacup.com/gskouhou/> (広報用)

<http://green.ap.teacup.com/applet/greenscoutosaka/archive>

(参加者・保護者用)

<http://moon.ap.teacup.com/applet/gs2009/archive> (ボランティア用)

・グリーンスカウト吹田(HPを開設)

http://www.geocities.jp/greenscout_suita1/htmls/top.htm

・JAFS 北河内緑とふれあう会

<http://blog.goo.ne.jp/midori-hureai/e/f44a89b4c3725b8971be5efb7902b179>

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

(1) ぞうすいの会

(山崎桃、平井三千子、澤村和子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味がある。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康をみなおすとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に衛生的な水を贈っている。

毎月1回(年間12回)開催で、アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。本年度は、ラオスに井戸2基を贈呈した。

本年3月で、283回目の「ぞうすいの会」を迎えた。継続することの大切さをあらためて実感でき、今後も、会員のみなさまの深いご

IV. 普及啓発事業

理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。

- 273回 4月6日 「フィリピン台風被災者支援の現場から」
松井聡子 12名参加
- 274回 5月11日 「ウォータースマイルプロジェクトについて」
田中壽美子 8名参加
- 275回 6月8日 「カンボジアの小額貸付事業について」
横山浩平 14名参加
- 276回 7月6日 「コスモニケタンの入学式に参加して」
小柳二郎・中島和子 14名
- 277回 9月7日 「グリーンスカウト運動の今～インドより」
松井聡子 12名
- 278回 10月5日 「これまでの井戸について～インドより」
富松英二 17名
- 279回 11月9日 「アジアネットワークセミナーの報告」
村上公彦 7名
- 280回 12月7日 「第2回目のアジアユースサミットに向けて」
田中壽美子 10名
- 281回 1月11日 「ネパールから最新ニュース」
熱田典子 11名
- 282回 2月8日 「アジア協会の研修を通じて学んだこと」
石田まり 佐々木遥 11名
- 283回 3月14日 「パキスタンとバングラデシュの今」
シェール、マスト 15名

(2)お母さんの地球学校

(代表 小原純子)

1984年、JAFS主催の「地球資源を考える読書会」に参加した母親が中心に、終了後も地球規模で考え勉強しようと、「国際婦人年10年」の最後の年の1985年5月12日の母の日に発足。危機状況にある自然の現状を知り、「土」「水」「緑」「人」を軸に、地球総合環境問題について、専門の研究者の講演を聞き、時にアジア各国の「お母さん」をお招きして、自然生態系の中でのバランスの取れた人間社会のありかたを学習。自然と人間が調和していく心を地球市民レベルで見つめて、次世代に伝えたいと希望。1996年1月28日には、同名タイトルの本『お母さんの地球学校』を発行。「お母さんの地球学校」主催の“緑のリサイクル運動”(牛乳パックの回収)は1985年の発足時より現在も続行中。

毎月第1か第3の木曜日午前10時半から12時半、JAFSにて開催。年令・性別問わず受講可。

講師の都合により一時休講中。

(3)アジア井戸ばたサロン

(代表 山崎桃)

1990年「WINA2000」アジア国際女性会議参加を機に開催された。これを機にアジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動が始まり、21年をむかえた。

小さな力でも積み重ねると大きな成果を生み出すということを合い言葉に、活動をつづけている。サロンに集まるメンバーとともに本年度も一歩一歩着実に歩み、手作り工芸品の製作など、おおいに成果をあげている。

目的達成のために1992年4月に設立された「水がめ基金」から、本年度も、「JAFS里親の会」に昨年と同様に10万円を支援した。

< 活動 >

- ①ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作(箸袋、季節のカード、香袋など)

毎週火曜日午後1時～3時

- ②各種文化交流会

<2010年5月20日>

春の見学会「日本庭園を訪ねて」(退蔵院・金閣寺)を実施し、ア)日本庭園史概略、イ)日本人の自然観、ウ)日本庭園鑑賞の実際を学ぶ。

<2010年10月12日>

美術鑑賞会「木田安彦の世界」～三十三間堂展(大丸ミュージアムKYOTO)。

<2011年3月22日>

美術鑑賞会「建仁寺～綴プロジェクト作品展～」(建仁寺)

(4)JAFS ハルハロ・Fランチ

(橋本末子、天野澄子、原のりこ、田村京子)

発展途上国における子どもの教育の大切さに着目して発足して、現在は3ヶ所の支援をしている。活動資金を得るための主活動として毎週金曜日に「Fランチ」を行っている。

支援先

- ◆フラット福祉センター(ネパール、パタン市)

両親がいない、片親である、あるいは家庭が非常に貧しいなどの理由で就学できない家庭の親子を面接して、困難な状況にある家庭の子どもを優先的に学校へ受け入れ、教科学習の他、健康チェックも行っているセンター。1988年に設立され、現在の生徒数は333人9学年まで。ハルハロは1993年以来、教師2人の給料支援を継続的に行っている。本年は、主活動である「Fランチ」参加者が現地を訪問、支援金の手渡し、現地レポートを「Fランチ」で行われた。その他、学校の様子等についての現地からメールにて報告。

- ◆日印友好学園コスモニケタン プライマリースクール
(インド カルナータカ州)

1998年より学校支援開始。2002年より毎年JAFSアジア里親の会の里子6人の支援を継続、現在10年生2人、7年生1人、6年生1人、5年生1人生徒達。本年は9月10日の「Fランチ」でJAFSスタッフの田中壽美子さん、JAFS理事富松英二氏より学校報告を受け、子ども達からは年1回の手紙を受け取る。

- ◆フィリピン・マニラ ストリートチルドレン支援(フィリピン・カビテ州)
JAFS ストリートチルドレン自立支援プロジェクト。2004年12月より支援開始。マニラ国鉄線路沿いスラム街に住んでいる子ども達(約100人)のための教育支援プログラム。2008年4月からJAFSアジア里親の会の里子6人の支援開始。現在1年生2人、2年生2人、3年生2人

活動

- ①「Fランチ」。毎週金曜日ランチタイムに、国内外からのゲストの

IV. 普及啓発事業

話(生活文化、環境問題、その他)を聞き、国際協力に不可欠な異文化理解を学びながら、スタッフ手作りの昼食を楽しむ。

②5月30日(日)南大阪教会ランチサービス

③11月6日(日)神戸グローバルチャリティフェスティバルに参加

④12月11日大東市北条人権文化センター主催 Xmas パーティ企画実施

⑤2011年2月4日ハルハロ「Fランチ」800回記念日

⑥2011年2月4日800回記念誌(兼、2年間報告)発行

2010年度ハルハロ・Fランチ ゲスト

・日本語で記載(日本語でのお話)

・英語で記載(英語でのお話)

〈回数〉	〈日にち〉	〈ゲスト氏名(国・所属)〉
763回	4月2日	オラゾフイスラム氏(トルクメニスタン)
764回	4月9日	Ms.Chandini Wanduragara (UK)
765回	4月16日	ハイメロペス氏(チリ)
766回	4月23日	青木洋介氏(JAFS)
767回	5月7日	ジャミラウタイムさん(中国・ウイグル)
768回	5月14日	清原舞さん(桃山学院大学)
769回	5月21日	林謙二氏(ケニア、タンザニア中古車輸出業)
770回	5月28日	王万雄氏(中国陝西省・黒龍潭)
771回	6月4日	橋本隆氏(JAFS 常任理事)
772回	6月11日	ダリアアナビアンさん(イラン)
773回	6月18日	金銅教子クリスティナさん(ブラジル)
774回	6月25日	ジュリエトリザマさん(チリ)
775回	7月2日	藤原建男氏(JAFS)
776回	7月9日	Ms.Jocelyn Sugigami(フィリピン)
777回	7月16日	劉偉氏(中国・内モンゴル)
778回	7月23日	ベルナルドカトリッセ氏(ベルギー)
779回	7月30日	三阪パニダ-さん(タイ)
780回	9月3日	ハイメロペス氏(チリ)
781回	9月10日	田中壽美子さん(JAFS)
782回	9月17日	Ms.Marjorie Harris and Famly(USA/Oregon)
783回	9月25日	シャフィナ(インドネシア)
784回	10月1日	ハリ シュレスタ氏(ネパール)
785回	10月9日	第21回アジアネットワークセミナーのゲスト
786回	10月15日	吉田幸子さん(JAFS 枚方)
787回	10月22日	小吹岳志氏(フェアートレード・サマサマ/オイコクレジット)
788回	10月29日	サラ ジュマリアさん(インドネシア)
789回	11月5日	Mr.Norm Boniface (Australia)
790回	11月12日	ハイメロペス氏(チリ)
791回	11月19日	ホトランガ氏(中国・内モンゴル)
792回	11月26日	ダリアアナビアンさん(イラン/イスラエル)
793回	12月3日	天野澄子さん(JAFS 家庭料理教室/ハルハロ)
794回	12月10日	キャンドル作り
795回	12月17日	「Fランチ Xmas パーティ モンセマリさん(スペイン)」
2011年		
796回	1月7日	熱田典子さん(JAFS)
797回	1月14日	早川健司氏(ハイチの会)
798回	1月21日	ヌルマビラシヨヒミさん(マレーシア)
799回	1月28日	Mr.Thomas Kock (USA/近畿大学准教授)

800回	2月4日	村上公彦氏(JAFS専務理事・事務局長)
801回	2月18日	三津谷千恵子(ハルハロサポーター)
802回	2月25日	ダリア・アナビアン(イスラエル/イラン)
803回	3月4日	川端勝(実践真宗学研究・JAFS 評議員)
804回	3月11日	員)
805回	3月18日	シェール・アハマド・ジャンシ(パキスタン)
806回	3月25日	ルビセリア中谷(メキシコ)
		Prof. Peter J Mallett (UK)

(5)アジア国際夏期学校(AISS)

(代表 河村蒼)

毎年夏に行う海外ワークキャンプ、アジア国際夏期学校(Asia International Summer School : AISS)の参加者が帰国後も、国内で自主活動が続いている。ワークキャンプの企画や準備をその年のワーク参加者とともにを行い、毎年インドの日印友好学園コスモニケタンスクールへ送り出している、今年で13回目を迎え、乾燥地だったワーク地も毎年の植林で一帯が緑豊かになっている。JAFS 唯一の小学生から参加できる海外ワークキャンプであり、現在国内活動の参加メンバーも中学生から社会人まで幅広い。

過去数年バザー等で得た収益金を本年度コスモニケタンの発電設備の修繕に協力することが出来た。

毎月 第1土曜日定例会

(6)フィリピン水源の森支援会

A. マロンバティッククラブ

(代表 垣鍔祐介)

フィリピン・バナイ島・パンダンへのワークキャンプ・交流ツアーの参加メンバーで構成。

現地との友好関係の継続やメンバー間の交流を図るため、定期ミーティングを行った。

2005年度からの試みとして、「JAPAN BOX」を作り、年末の国際交流キャンプの際に持参・発表をした。また、絵本プロジェクトとして、使わなくなった絵本を集め、それに英訳を貼りつけて、現地に寄贈を行った。また、リサイクルのジュースパックを現地より買い付け、国内販売をすることで、パンダン町の障がいを持つ人たちの支援を行う。

<活動>

- ・ミーティング(1回/月) ・展示物・活動紹介チラシ作成
- ・現地植林活動支援 ・パンダン交流キャンプ計画支援
- ・絵本プロジェクト
- ・ネットワークセミナーへの寄付

7月30日	クラブ定例会 於:JAFS
10月2日	クラブ定例会 於:JAFS
10月8日	フィリピン交流会 (ネットワークセミナーで来日者のため)
12月4日	クラブ定例会 於:JAFS
12月10日	パンダンキャンプオリエンテーション
12月27日	第12回パンダン国際交流キャンプ ～1月2日
1月17日	クラブ新年会 於:明石

IV. 普及啓発事業

B. パロンバナス会

(代表 曾和 明)

フィリピンのパロンバナス島のワークキャンプへ参加したメンバーが中心に、帰国後も現地の支援を行うことを目的に 2008 年に組織。現地との交流、環境に関する知識の向上を行っている。

また、各地に募金箱の設置し、プロジェクトに対して多くの方の理解と協力を得ることができた。その結果、現地の苗床や苗木の支援を行うことができた。

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 4月8日 | 例会、写真交換会於:JAFS |
| 7月13日 | 例会於:JAFS |
| 10月8日 | フィリピン交流会
(ネットワークセミナーで来日者のため) |
| 2月19日 | ワークキャンプオリエンテーション於:JAFS |
| 2月26日 | ワークキャンプオリエンテーション於:JAFS |
| 3月3日 | 第4回パロンバナス国際ワークキャンプ |
| ～3月9日 | |
| 3月24日 | 例会、写真交換・報告書作成 |

(7)スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 鈴木誠也)

スリランカ現地提携団体である NGO「サルボダヤ」との絆を深め、サルボダヤ運動の根幹となる部門 CCBU (Community Capacity Building Unit) が行う農村開発運動への支援の輪を広めていくことを目標として活動している。

スリランカに関するプログラム(講座や文化交流等)を企画開催し、スリランカの歴史・文化・環境・生物の多様性等を楽しみながら学んでいく内容とした。一人でも多くの方にスリランカを身近な国と感じ、日本とは異なる文化を持つこの国への理解を深めることで、CCBUの活動への理解・支援の輪の発展を目指す。

- | | |
|---------------|--|
| 4月12日 | 例会 於:JAFS 会議室 |
| 4月29日 | 春の JAFS 住道バザー 出店 於:大東市 |
| 5月1日 | メーデイイベント模擬店参加 於:大阪城公園 |
| 5月9日 | 東大阪ふれあいまつり 模擬店参加
於:河内小阪駅近く |
| 5月15日 | JAFS 春のボランティアガイダンス参加
於:JAFS 会議室 |
| 6月14日 | 例会 於:JAFS 会議室 |
| 7月10日 | 第11回スリランカ講座
『異文化生活 15 年@大阪』
講師:畚野サンディア氏 於:JAFS 会議室 |
| 8月28日、
29日 | 泉大津イベント模擬店参加
於:泉大津フェニックス |
| 9月4日 | 泉大津イベント模擬店参加
於:泉大津フェニックス |
| 9月13日 | 例会 於:JAFS 会議室 |
| 10月17日 | 枚方 NPO フェスタ 於:岡東中央公園 |
| 10月24日 | 秋の JAFS 住道バザー 出店
於:岡東中央公園 |
| 11月20日 | 枚方多文化フェスティバル 模擬店参加
於:JAFS 会議室 |
| 12月13日 | 例会 於:中ノ島光の祭典会場 |

ゲスト ラッキー氏

- | | |
|-------|--|
| 1月25日 | 新年会 於:ワーサナ |
| 2月5日 | ワン・ワールド・フェスティバル模擬店参加
6日 於:大阪市国際交流センター |
| 2月14日 | 例会 於:JAFS 会議室 |
| 3月5日 | 第10回スリランカ講座『スリランカ料理教室』
講師:畚野サンディア氏 於:クレオ大阪西 |

(8)コスモニケタン育成会

(代表 村上武)

本育成会は発足から3年目に入った。今年度はコスモニケタンの運営の維持と昨年導入されたソーラー及び風力によるハイブリッド発電設備の修繕の費用を集めることができた。今後は先般から話し合われている企画実行を目指して、定期的に活動を行っていく予定である。

(9)JAFS山の会

(代表 佐々靖男)

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 4月17日 | 第90回例会 二上山から屯鶴峯
参加者:5名 |
| 5月15日 | 第91回例会 高城山から三郎岳
参加者:7名 |
| 6月19日 | 第92回例会 生駒山(雨天中止) |
| 7月17日 | 第93回例会 枚岡神社から生駒山
参加者:9名 |
| 8月2日
～4日 | 第94回例会 ハヶ岳・天狗岳から唐沢鉱泉
参加者:6名 |
| 9月18日 | 第95回例会 雨山から永楽ダム
参加者:6名 |
| 10月16日 | 第96回例会 六甲・西お多福山
参加者:7名 |
| 11月20日 | 第97回例会 京都・洛北ウォークと納山会
参加者:9名 |
| 2月19日 | 第98回例会 大河原から笠置山
参加者:8名 |
| 3月19日 | 第99回例会 壺阪寺から高取山
参加者:7名 |

2000年4月に発足したJAFS山の会は11年かけて当初の目標の100回の山行を事故無く、無事完了した2011年4月で解散しました。

JAFS山の会は10年度、ネパールバイオガス設置支援と東日本大震災に寄付をしました。

(10)JAFSネパールのかけ橋

(代表 岡田光浩、書記 一瀬由起子)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とする。

活動のテーマは、「ネパールの子どもたちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主計画を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。

IV. 普及啓発事業

原則として、毎月1回(第2土曜日17時～)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。本年度は、活動10周年を迎える節目の年であり、記念日を祝うことと合わせ、今後の活動の発展を皆で確認した。ネパールの支援に関しては、今年度より里親の会を通して、チュニケル村の両親共に死亡して孤児となったプラカーシュ君の支援をはじめ、ピトゥリ村のラーズラトナ小学校増設支援のための資金調達を主活動とし、その他、ネットワークセミナーへのGS-Nepalよりの3名の招聘者の一部渡航支援及び当日のボランティア参加、また3名の来日の歓迎と交流を行なった。また数年にわたって実施している情操教育(図画工作)の支援の仕方、冬季ワークキャンプにて栄養指導のプログラムを導入するための教材を手作りで作成した。今年度2セット作成し、ピトゥリ村のスリーサンティ小学校とトクチャ村の小学校の2校へ寄贈した。

4月29日	JAFS バザール参加
5月1日	連合大阪メーデーイベントに参加
5月15日	活動10周年記念例会及びパーティー in カトマンズ ドウイ
6月	例会
7月10	例会
8月21日	例会
8月27日	枚方まつり出店準備
8月28日	枚方まつり出店参加
8月30日	泉大津フェニックス野外コンサート出店参加
9月5日	泉大津フェニックス野外コンサート出店参加
9月11日	例会
10月17日	例会 GS-Nepal パダム氏、オーム氏、ラビンドラ氏を囲んで
11月3日	東大阪多国際フェスタへ出店
11月13日	松原ワールドフェスタ参加出店
11月20日	例会
11月30日	寝屋川多文化フェスティバル出店準備
12月4日	寝屋川多文化フェスティバル出店参加
12月11日	例会&忘年会
1月8日	例会・新年会
2月19日	JAFS 会員大会参加
3月12日	例会

(11) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。

来年度は飲食店出店や料理を通じた文化交流プログラム等を企画し、PAONとしてJAFSの海外プロジェクト支援、特に安全な飲料水の支援を目標に活動している。

4月7日	2009年度報告と2010年度予定 於:JAFS 会議室
4月29日	春のJAFS チャリティバザール出店 於:住道駅前デッキ
5月1日	メーデーイベント模擬店参加 於:大阪城公園
5月15日	春のボランティアガイダンス 於:JAFS 会議室

8月28日、	泉大津イベント模擬店参加
29日	於:泉大津フェニックス
9月5日	泉大津イベント模擬店参加 於:泉大津フェニックス 於:泉大津フェニックス
10月24日	秋のJAFS チャリティバザール出店 於:住道駅前デッキ
11月4日	ラオスに井戸寄贈申込み
2月5日	ワン・ワールド・フェスティバル
～2月6日	民族料理模擬店出店参加 於:大阪市国際交流センター

各イベント前にはミーティングを行い、協力体制を構築している。

(12) JAFSビジネス交流会

(代表 茶谷良明)

ビジネス、商流を通じて何がしかの利益を得て、活動に貢献するのが会の趣旨ですが、昨今の経済状況を含め、商売ができない会員や絶対会員数が減少して苦慮しているのが現状です。

<定例会開催>

日時: 奇数月の第3水曜日 18:30～

場所: いきいきエイジングセンター(大阪市北区)

(13) JAFSダンス同好会

(富田修、橋本隆、天野澄子)

楽しみながらボランティア資金(井戸基金)を集める趣旨で開催している。本格的な社交ダンスから懐かしいポップス、オールディーズを交えた気軽なパーティー。参加者も世話人も一体となって音楽とダンスとおしゃべりを楽しむ。JAFS 会員以外の参加者も多く、会員獲得の機会もあり、JAFS 活動のPRの場にもなっている。

2008年度には本同好会からの第1基目の井戸として、スリランカに井戸を寄贈した。

(14) JAFSダーナースクラブ

(代表 寺岡 源司)

このクラブは官民各分野の第一線を退いた方々がより実り多い“第2の人生”を送れるように、また、現役時代に培った知識・経験を生かして、楽しみながら活動できるようにとの願いで、2005年に発足。

英語の donor(篤志家), donation(寄付)や日本語の「檀那」などの語源である古代インドのサンスクリット語「ダーナ」*dāna*(贈物)をもとに、村上局長から命名された。

<主体活動>

例会の開催(毎月第2金曜日)

4/9、5/14、7/9、9/10、11/12、12/10、1/8、2/18、3/11

<ネパールの里子支援>

<共催・支援活動>

5月15日	春期ボランティアガイダンス
5月29日	中国黒龍譚一行送別会
8月8日	土と水と緑の学校参加協力
～8月13日	
10月8日	第21回アジア国際ネットワークセミナー支援

IV. 普及啓発事業

～10月13日
10月31日 淡路島うずしおフェスティバル・絵画展・紹介
12月11日 土佐堀クリーンUP作戦
2月5日 ワンワールドフェスティバル支援
～2月6日
2月19日 JAFS 会員大会支援

<ダーナーズ通信発行>

(15) ラーマンプロジェクト支援会

(代表 川口逸朗)

バングラデシュ工科大学(BUET)の Md.ムンスール・ラーマン教授は、バングラデシュで深刻な問題となっている洪水対策の統合的な解決を目指し、洪水対策プロジェクトを立ち上げた。本支援会はラーマン教授が中心となっている「水とたたかう人々を支援する会～ラーマンプロジェクト～」を支援するため2006年10月に立ち上げた。

バングラデシュの水問題に取り組む BUET のサポートしている大学院生中、Mr.Md.Maksud Alam は国立クルナ大学環境科学部に講師として就職し、2011年2月に来日し、本会の東日本大震災の災害復興支援活動の本部のボランティア作業などを手伝った。また Mr. Sayed Mohammad Nazim Uddin 氏は国費留学生として名古屋大学に留学中である。

(16) JAFS オアシス会(中国教育医療支援会)

(代表 青木美千代)

オアシス会とはアジアの中に「理解と協力と連帯」の輪を拡げるといふ JAFS 基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。

シルクロードを通じて日本にもたらされたものを「文化交流」により見出し、日本文化の原点を身近に感じることで、私達の日常に根付いている文化を再認識し、それぞれが培ってきた伝統文化や精神を次の世代にバトンタッチできるよう、アジアの一員として未来に向けた活動を行う。

2011年 「アジア屋台フェスティバル」 出店参加協力
1月29日
2月4日 ハルハロFランチ 800回記念 参加協力

(17) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2010年度は10月8日～14日間に奈良市にて開催された第21回アジア国際ネットワークセミナーへの資金支援を行いました。

(18) ネパール子ども夢基金

ネパールの子どもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援

基金。

会員として支援者を募ると共に、第39回ネパールワークキャンプ(2011年12月末実施)における子ども環境セミナーを実施の支援を行った。

(19) ネパールスクテ診療所支援会

(代表 小原純子)

スクテ診療所は無医村のため医療行為を身近に受けることができなかったシンドゥバルチョーク郡スクテ村とその周辺の住民のために本会支援のもと、建てられたスクテ診療所。

地域住民により自立運営できることをめざし、村民が安全な地域医療を受けることができる体制づくりのための支援を行う。アルミ缶のブルトップ収集を積極的に行い、5月に100キロ、3月に200キロのブルトップを換金することが出来た。

9月5日 泉大津フェニックス野外コンサート出店参加

(20) ネパール赤ちゃん(母子健康)支援会

(代表 大谷タカ子)

ネパールでは、妊娠中、そして出産の時に病院でケアを受けることが殆どない。背景には、国土の80%以上が山地であるネパールでは、数時間、数日かけて病院にたどり着く場合が多く、通院することが不可能だからである。そのため、安全なお産が少なく、多くのリスクを抱えてのお産を婦人達は強いられている。本支援会は、山間地であっても生命の誕生であるお産が少しでも安全な中で迎えられるよう、母子保健の向上のために支援をする会である。現地の中心であるビマラさんの体調不良のため現地の積極的な活動を休止する状況となり、医療備品の提供などに活動をとどめた。

(21) JAFS RUDYA 少数民族支援会

(代表 渡邊瑠璃子)

JAFS が1983年から、井戸・飲料水供給事業を支援している中部インド、マハラシュトラ州、ガッチロリ地区において、少数民族アディバシーの生活改善事業の推進母体である現地 NGO の RUDYA(1992年州政府認可)の活動支援を行っている。本年度も継続し、日印友好学園グラミン小学校及び RUDYA の活動支援を行った。

(22) 国際グリーンスカウト支援会

国際グリーンスカウト活動の発展に寄与することを目的に設立。国内外のグリーンスカウト活動への支援やグリーンスカウトメンバーの育成を行う。

年4回実施されている「エコキャンプ」や毎年8月に和歌山県新宮市で開催されている「土と水と緑の学校」への支援を行い、参加者やボランティアリーダーが参加しやすい環境をつくる。具体的には、キャンプ備品の整備や、ボランティアリーダーなどの経済的負担を軽減、キャンプ中の生活環境改善するための支援を行う。また、グリーンスカウト活動のリーダーを育成するために、1年を通じて研修を行う。

フィリピンパロンバネス島のグリーンスカウトが実施している植林活動を支援するための「植林基金」を創設し、支援をしている。(GS大阪共同事業)

(23) 会員親睦・交流支援会

(代表 岡田 昂)

IV. 普及啓発事業

JAFS 会員の交流及び、新入会員の歓迎、会員研修・相互理解のために必要な各種企画の立案・実施を行うため、2008 年 5 月に立ち上げた。今年度は、JAFS ウェルカムパーティーを 4 回開催し、延べ 13 名の新入会員の参加があった。今後は、さらに会員の親睦を深め、新たな輪を広げるとともに、各企画を通して積極的に関わるメンバーを増やしていくことを目的に活動を行っている。

4 月 20 日	例会
4 月 24 日	JAFS ウェルカムパーティー実施 (12 名)
6 月 15 日	例会
7 月 20 日	例会
7 月 24 日	JAFS ウェルカムパーティー実施 (16 名)
9 月 14 日	例会
11 月 20 日	JAFS ウェルカムパーティー実施 (8 名)
12 月 14 日	例会
1 月 18 日	例会
1 月 22 日	JAFS ウェルカムパーティー実施 (7 名)
2 月 15 日	例会
3 月 15 日	例会

(24) チャリティーバザー支援会

物品販売を通じて JAFS の運営資金を継続的かつ安定的に確保していくことを目的とする。あわせて本会の活動を広く一般市民に伝えていくことを目指す。

< 四天王寺でのバザー出店 >

実施日: 4/21、5/21、6/21、7/21、8/21、10/21、11/21、12/21
1/21、2/21

場 所: 四天王寺

< その他の場所でのバザー出店 >

実施日: 2011 年 2 月 12 日
場 所: 新大阪駅前

(25) 広報活動支援会

3 年目を迎えた本年は、広報企画委員会(古賀旭委員長)のメンバーとして広報活動の拡大・充実に取り組んできました。とりわけ東大阪市の府立中央図書館(7/20～8/2)において開催した『今、アジアが動いている!! アジアのちびっこ未来注目展』は新しい可能性を切り開くイベントとなった。アジアのちびっこ絵画展、アジアの現状と子どものためのプロジェクト、アジア各国の文化紹介やワークショップなど多彩な催しとなり、JAFS の PR・紹介の実を挙げることができた。今後とも機会を頂いて、50 万都市被害氏大阪市内で JAFS 一大 PR 拠点化を目指す

< 大阪市内の公共施設を中心に案内配布 >

- ・ 大阪市立各区民センター(31 カ所及び 出張所)
- ・ 大阪市立生涯学習センター(5 カ所)
- ・ いきいきエイジングセンター
- ・ 大阪ボランティア協会
- ・ PiaNPO
- ・ ボランティア情報センター 他

< JAFS 広報ファイル製作 >

- ・ JAFS の活動紹介とファミリーグループの 2 種類を作成(ぜひご利用ください)

< うずしおフェスティバル 2010(南淡路市)10/31 >

< アジアちびっこ絵画展と JAFS 活動紹介 >

5. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 沖田文明)

NPO 法人資格得て既に 10 年余が経ち、その活動も地に付いてきた感がある。主に、全体の活動としては初めて取得した資産「美山楽舎」の整備・運営に注力してきた。まだまだ道半ばとは言え、家屋内外の整備を進めている。遅々としてはあるがその成果は見るべきものがある。また、地元の方との交流も日々に進み、多くのご協力を得ていることが嬉しい。課題は山積しているが、古民家のあるべき姿を保存しようと、会員や会員外の多くの方々の献身的なご協力を得て形を整えつつある。

また、本年も各部において、それぞれの目的に沿った活動を続けてきた。例年のように淀川の「べっこうしじみ獲り」を開催し多くの市民の参加を得た。この催しは回を追う毎に参加者が増え、マスコミにも取り上げられている。昨年は水都祭にも他団体と協力して参加し市民に大阪に残る自然の大切さを訴えてきた。今期は、「水都大阪にぎわい創出プロジェクト 2010」に参加し、河川囲まれた水都大阪の将来像について提案した。このような催しが望まれるし積極的に参加し、KANTA の理念を広く知らせていく必要がある。

平城遷都 1300 年にあたり、遷都祭に参加し橿原考古学研究所の先生の解説で平城京を訪ね教養を深めた。秋には、太子町において街人(ガイド)を招き、源氏三代墓や聖徳太子の遺跡や歴史的街道を巡り、まるで古代を身近に感じる貴重な体験をした。2 年ほど休んでいた蔵人体験を復活させ、連綿と続く酒造りを体験した。2 月には例年のごとく、二月堂のお水取り用の竹送りに多くの会員が参加した。その他にも、重要な行事として堺において大阪府と共同しての植林や地域住民と協力して「土佐堀クリーン作戦」も継続実施している。

これからも自然の大切さ、日本固有の田園風景や歴史的な文化遺産を守るため会員自身の教養を深める勉強会と同時に活発な活動を続けていかなければならない。一方においては他団体との協調を図るため、東京で開催された日本のトラスト活動の大会にも理事 1 名を出席させた。

■ 今後の課題

会員数が増加せず経営的にも苦しい状態が続いているので、今後、会員を増やす活動が望まれる。活動プログラムのマンネリ化が懸念されており、本年は市民の多くが興味を持てるような新しいプログラムが必要と思われる。各行事にあたり、広く PR を試み一般の参加者を募り会員増加に結びつくような積極的な活動が求められる。

(2) グリーンベイ OSAKA

(代表 萩尾千里)

堺第 7-3 区の埋め立て地の緑化を目的として、2008 年 6 月に発足。

IV. 普及啓発事業

植林目標 20,000 平方メートルの内、2,500 平方メートルに植林を行い、その草刈りなどの維持管理を行っている。

<活動日>

5 月 30 日 森を育てる会(草刈り) (47 名参加)

11 月 28 日 第 4 回グリーンベイト植樹会(120 名参加)

<植林本数> 840 本

(3) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表 萩尾千里、大阪代表幹事 橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬かつ信頼される国(社会づくり)」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的の市民の会を目指している。

2006 年 12 月発足

<大阪グループ会員 212 名>

<フォーラム活動(会員議会/政策提言)>

1. 奉仕活動(各種ボランティア活動へ参画)
2. 自己啓発活動(自己研修・鍛錬など)
3. 健康増進活動

<2010 年度講義>

- | | | |
|------|----------|--------------------------------------|
| 6 月 | 第 28 回 | 教育とマスメディア(9 名)
ー今後の展望、過去の提言を踏まえてー |
| 7 月 | 第 29 回 | 教育他、各種政策提言を踏まえて(29 名) |
| 9 月 | 第 30 回 | 記念講演会にむけてー(9 名) |
| 10 月 | 第 31 回 | 各人の信条と期待を込めて国政に参画しよう(12 名) |
| 11 月 | 特別
講演 | 世界から尊敬かつ信頼される日本を!
講師:西村真吾氏 |
| 1 月 | 第 32 回 | 「目を覚ませ日本!」(18 名)
於: 尼崎 |
| 3 月 | 第 33 回 | 各地に輪を広げよう! |

(3) その他協力団体

◆関西国際交流団体協議会

加盟し、理事として協議会に協力活動を行っている。

◆関西 NGO 協議会

加盟し、協力活動を行っている

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

◆国際協力 NGO センター(JANIC)

正会員として加盟し、協力活動を行っている。

◆ジャパン・プラットフォーム(JPF)

賛助会員として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。

◆民際フォーラム

地域で活動する民間団体の連携組織に構成団体として加盟。1983 年より国際交流の担い手である市民一人一人の意識を啓発し、幅

広く実りのある民際交流の促進の活動を行う。

◆ネパール NGO ネットワーク(4N)

加盟し協力活動を行っている。



機関誌 アジアネット・会員プラザ



中山寺こども祭りの様子



第2エリア・「緑とふれあう会」子どもたちとの植林の様子